

令和7年度  
事業報告書

東京都品川区旗の台一丁目5番8号



学校法人  
昭和医科大学

## はじめに

本学は、創立100周年に向けて果たすべき使命と、未来に繋げる将来構想を明確にし、各年度に実行すべき事業を計画し遂行しております。ここに令和7年度の事業内容を「令和7年度事業報告書」として取りまとめました。

令和7年度は、創立100周年とその先の未来を見据えた記念事業として、「旗の台キャンパス整備事業」「鷺沼キャンパス整備事業」「歯科病院 旗の台移転事業」「藤が丘病院再整備事業」「富士吉田キャンパス整備事業」「保健医療学部新学科等設置・再編事業」「横浜キャンパス看護専門学校設置事業」の7つの事業を引き続き推進いたしました。

富士吉田キャンパス整備事業においては、令和6年度に着工した新実習棟（2号館）が令和8年1月に竣工し、形態機能実習に対応した教育設備の導入を行うなど、教育環境の充実を図りました。これにより、令和8年度から開始する「カリキュラム2026」の実施に向けた体制を整えました。

教育活動においては、令和8年度から開始する「カリキュラム2026」の構築を全学的に進め、履修要項やシラバス等の整備を行いました。また、令和9年度開設予定のリハビリテーション学科新専攻および医療技術学科については、カリキュラム構築や教員体制の整備を進め、設置に向けた手続きを行いました。

研究活動においては、研究分野のセンター化に向けた検討を進めるとともに、競争的資金獲得に向けた支援や研究助成制度の充実を図りました。また、研究支援体制の強化や臨床研究の質の向上に取り組むとともに、産学官連携の推進や人材育成を通じて研究活動の活性化に努めました。さらに、企業および自治体との包括連携協定の締結などにより、共同研究の推進と地域社会との連携強化を図りました。

各附属病院においては、診療体制の強化や業務負担軽減に取り組み、救急受入体制の充実と新規入院患者の確保を図るとともに、チーム医療の推進を図りました。また、統括がん情報センターや国際健康推進センターの設置、電子カルテの統合・高度化を進めるとともに、設備更新や施設整備を計画的に実施し、安全で質の高い医療提供体制の向上に努めました。

このように令和7年度も様々な事業を展開してまいりました。本事業報告書は、本学における主要な事業を総括し、関係各位の皆様方へご報告申し上げます。本報告が本学をご理解いただくための一助となれば幸いです。

学校法人 昭和医科大学  
理事長 小口 勝司

# 令和7年度 学校法人昭和医科大学 事業報告書

## 目 次

### 第1章 法人の概要

I	建学の精神	1
1.	建学の精神	1
2.	昭和医科大学の教育理念	1
II	学校法人の沿革	1
III	学校法人昭和医科大学組織図	4
IV	理事・監事の概要	5
V	執行役員の概要	5
VI	評議員の概要	6
VII	役員賠償責任保険契約の状況	7
VIII	会計監査人の概要	7
IX	理事選任機関の概要	7
X	職員の概要	7
XI	設置する学校・学部・学科	9
XII	学校・学部・学科等の学生数の状況	9
XIII	志願者数、合格者数、入学者数	10
XIV	卒業・修了者数	10
1.	学部	10
2.	大学院	10
3.	専攻科	11
4.	附属学校	11

XV 国家試験結果	11
1. 学部	11
2. 看護専門学校	12
3. 助産学専攻科	12

## 第2章 事業の概要

### 第1部 令和7年度事業計画実施報告（主要事業）

I 法人	13
1. 校名変更	13
2. 創立100周年記念事業	13
3. 旗の台キャンパス 整備事業	13
4. 鷺沼キャンパス 整備事業	13
5. 藤が丘病院再整備計画	13
6. 富士吉田キャンパス整備計画	13
7. 歯科病院 旗の台移転事業	14
8. 保健医療学部 新学科等設置・再編事業	14
9. 横浜キャンパス 看護専門学校設置事業	14
II 教育	14
1. 新カリキュラムの構築	14
2. リハビリテーション学科新専攻設置準備およびカリキュラムの構築	14
3. 医療技術学科設置準備およびカリキュラムの構築	14
III 研究	15
1. 研究分野のセンター化	15
2. 競争的資金獲得のための支援	15
3. 研究活動促進のための支援	15
4. 研究マインドの醸成のための取り組み	15
5. 臨床研究の推進および質の向上	15
6. 産学官金連携の推進	15
IV 国際交流	16
1. 国際交流活動の強化	16
2. 留学生の受け入れ体制強化	16
3. 海外の研究者との交流活動活性化	16
4. 他大学との連携推進	16

V	診療	16
1.	昭和医科大学病院統括がん情報センターの設置	16
2.	昭和医科大学病院国際健康推進センターの設置	16
3.	新規入院患者の増加	16
4.	労務環境の改善	17
5.	電子カルテの更新	17
6.	中長期計画に則した機器更新、工事・建物設備維持管理の実施	17
VI	管理運営の充実	17
1.	管理運営体制の整備と円滑な法人運営	17
2.	施設設備の整備・活用	18
3.	福利厚生 of 充実	19
4.	他大学・地域との連携強化・充実	19
5.	中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況	22

## 第2部 本学の事業

I	主な教育・研究の概要	27
1.	卒業の認定に関する方針	27
2.	教育課程の編成及び実施に関する方針	27
3.	入学者の受け入れに関する方針	28
II	教育・研究の充実	28
1.	医学部・医学研究科	28
2.	歯学部・歯学研究科	31
3.	薬学部・薬学研究科	34
4.	保健医療学部・保健医療学研究科	36
5.	富士吉田教育部	38
6.	看護専門学校	40
7.	助産学専攻科	41
8.	研究所・共同施設	42
III	学生・卒業生支援	53
1.	奨学金	53
2.	キャリア支援	53
3.	健康管理	53
4.	ホームカミングデー	54
5.	課外活動等	54

IV	国際交流	54
1.	学生の海外大学における実習・研修	54
2.	海外の大学との交流協定の締結	57
3.	職員の海外留学・海外渡航	59
4.	学部留学生・大学院留学生の受入れ	62
5.	招聘研究者の受入れ	63
V	地域連携	64
1.	公開講座	64
VI	図書館	67
1.	図書の整備	67
VII	診療施設	68
1.	昭和医科大学病院	69
2.	昭和医科大学病院附属東病院	69
3.	昭和医科大学藤が丘病院	69
4.	昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院	70
5.	昭和医科大学横浜市北部病院	70
6.	昭和医科大学江東豊洲病院	71
7.	昭和医科大学豊洲クリニック予防医学センター	72
8.	昭和医科大学附属烏山病院	72
9.	昭和医科大学歯科病院・内科クリニック	73

### 第3章 財務の概要

I	決算の概要	74
1.	貸借対照表の状況	74
2.	事業活動収支計算書の状況	74
II	経年比較	76
1.	貸借対照表	76
2.	収支計算書	77
III	主な財務比率比較	81
IV	その他	82
1.	資産運用の状況	82
2.	学校債の状況	83
3.	借入金の状況	83
4.	寄付金の状況	83

5. 補助金の状況	83
6. 関連当事者等との取引の状況	83
7. 収益事業の状況	84

## 第4章 内部統制システムの整備及び運用状況の概要

I 関係する決議の概要	86
II 体制整備及び運用状況の概要	86
1. 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制	86
2. 損失の危険の管理に関する規定その他の体制	86
3. 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制	86
4. 職員の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制	86
5. 監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制等	87

## 附属明細書

I 内部統制システムの整備・運用に関する基本方針	88
1. 経営に関する管理体制	88
2. リスク管理に関する体制	88
3. コンプライアンスに関する管理体制	89
4. 監査環境の整備（監事の監査業務の適正性を確保するための体制）	89
5. 本方針の改廃	90

# 令和7年度 事業報告書

## 第1章 法人の概要

### [I 建学の精神]

#### 1. 建学の精神

「国民の健康に親身になって尽くせる優れた臨床医家を養成する」が本学の建学の精神である。これが何事にも真心をもって尽くす「至誠一貫」の言葉で受け継がれている。

#### 2. 昭和医科大学の教育理念

医系総合大学の特徴を生かし、専門領域の高度な知識と技能を身につけるとともに、学部  
の枠を越えてともに学び、互いに理解し合え、協力できる人材を育成する。そして、その専  
門職にふさわしい人間性豊かな医療が実践でき、高い倫理性と豊かな社会性を備え、生涯に  
わたって学習・研究を怠らず医療の向上に邁進する、真の医療人たりうる資質を磨き上げる。  
すなわち、「社会に貢献する優れた医療人の育成」である。

### [II 学校法人の沿革]

昭和3(1928)年3月	財団法人昭和医学専門学校設置認可
5月	医学専門学校附属医院開院(現在の昭和医科大学病院)
昭和6(1931)年8月	附属産婆看護婦講習所設置認可
昭和21(1946)年4月	財団法人昭和医科大学設置認可(大学令による医科大学)
昭和26(1951)年2月	財団法人から学校法人に組織変更
7月	烏山病院開院
昭和27(1952)年2月	昭和医科大学医学科(専門課程)設置(学校教育法による)
昭和28(1953)年9月	昭和医科大学附属秋田外科病院開院
昭和34(1959)年3月	大学院医学研究科(博士課程)設置認可
昭和39(1964)年3月	薬学部薬学科設置認可
3月	医学部附属高等看護学校設置認可
4月	学校法人昭和医科大学を学校法人昭和大学に名称変更 昭和医科大学を昭和大学に名称変更 昭和医科大学病院を昭和大学病院に名称変更
昭和40(1965)年4月	富士吉田校舎開設
昭和41(1966)年12月	薬学部生物薬学科設置認可
昭和44(1969)年3月	大学院薬学研究科(修士課程)設置認可
昭和47(1972)年12月	昭和大学附属烏山病院高等看護学校設置認可
昭和49(1974)年4月	大学院薬学研究科(博士課程)設置認可
昭和50(1975)年7月	昭和大学附属烏山病院高等看護学校第二看護学科設置認可
7月	藤が丘病院開院
昭和51(1976)年9月	昭和大学附属烏山高等看護学校(専修学校に切替)
昭和52(1977)年1月	歯学部歯学科設置認可

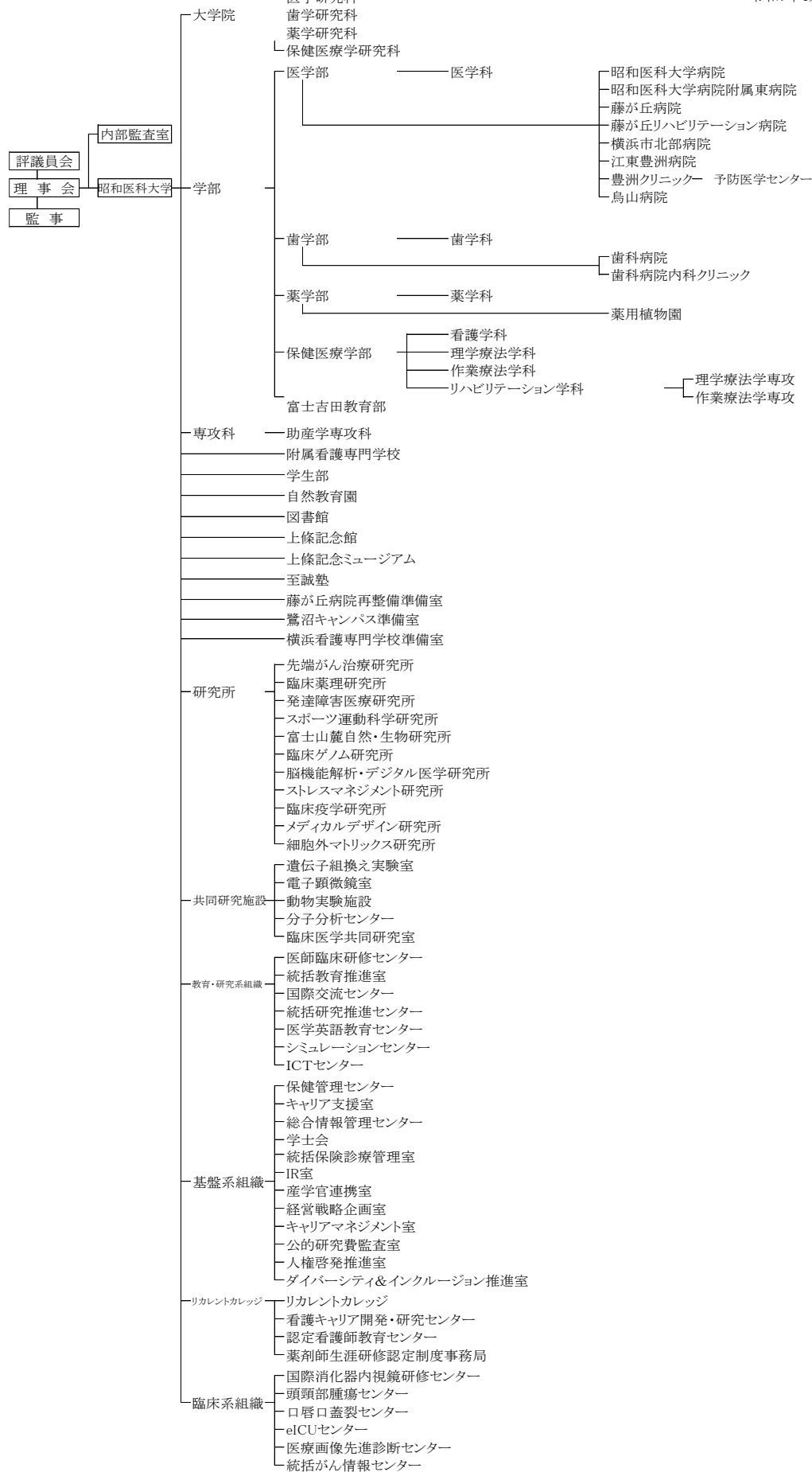
昭和52(1977)年6月	歯科病院開院
昭和53(1978)年11月	医学部附属看護専門学校設置認可（専修学校に切替）
昭和57(1982)年6月	豊洲病院開院
昭和58(1983)年3月	大学院歯学研究科（博士課程）設置認可
平成2(1990)年6月	藤が丘リハビリテーション病院開院
平成6(1994)年4月	昭和大学附属烏山看護専門学校と名称変更
平成8(1996)年3月	昭和大学附属秋田外科病院廃止
9月	昭和大学腫瘍分子生物学研究所開設
12月	昭和大学医療短期大学設置認可
平成10(1998)年4月	大学院薬学研究科改組 薬学専攻・医療薬学専攻 博士課程（前期・後期）
平成11(1999)年4月	昭和大学病院附属東病院開院
平成13(2001)年2月	診療放射線専門学校設置認可
4月	横浜市北部病院開院
12月	昭和大学保健医療学部設置認可
平成17(2005)年3月	昭和大学附属烏山看護専門学校廃止
5月	昭和大学医療短期大学廃止
平成18(2006)年4月	保健医療学部看護学科助産師学校指定
4月	教養部を改組し富士吉田教育部設置
4月	薬学部6年制教育開始に伴い薬学科、生物薬学科を薬学科に改組
11月	豊洲クリニック開院
11月	大学院保健医療学研究科（修士課程）設置認可
平成23(2011)年3月	診療放射線専門学校廃止
4月	大学院薬学研究科博士課程（前期）廃止
5月	大学院薬学研究科博士課程（後期）募集停止
6月	大学院薬学研究科博士課程（4年制課程）設置届出
10月	大学院保健医療学研究科課程変更認可 保健医療学専攻 博士課程（前期・後期）
10月	昭和大学臨床薬理研究所開設
10月	昭和大学富士吉田自然教育園開園
平成24(2012)年4月	助産学専攻科 助産師学校指定
平成26(2014)年3月	豊洲病院廃止（江東豊洲病院へ診療体制移行）
3月	江東豊洲病院開院
平成26(2014)年4月	昭和大学発達障害医療研究所開設
平成27(2015)年4月	昭和大学スポーツ運動科学研究所開設
平成28(2016)年4月	歯科病院内科クリニック開院
平成30(2018)年8月	昭和大学先端がん治療研究所開設
令和元(2019)年5月	上條記念館竣工
令和4(2022)年4月	昭和大学富士山麓自然・生物研究所開設

令和4(2022)年4月 昭和大学臨床ゲノム研究所開設  
令和5(2023)年4月 保健医療学部 リハビリテーション学科設置  
4月 保健医療学部 理学療法学科・作業療法学科募集停止  
4月 昭和大学脳機能解析・デジタル医学研究所開設  
10月 昭和大学ストレスマネジメント研究所開設  
令和6(2024)年2月 昭和大学横浜自然教育園開園  
4月 昭和大学臨床疫学研究所開設  
4月 昭和大学メディカルデザイン研究所開設  
4月 昭和大学細胞外マトリックス研究所開設  
令和7(2025)年4月 学校法人昭和大学を学校法人昭和医科大学に名称変更

### [Ⅲ 学校法人昭和医科大学組織図]

学校法人昭和医科大学組織図

令和7年4月1日



[IV 理事・監事の概要]

定員数 理事 10名～13名、監事 3名～4名

(令和8年3月31日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤	摘要
理事長	小口 勝司	常勤	平成12年4月1日理事就任 平成13年4月1日理事長就任
理事	上條 由美	常勤	平成26年4月1日理事就任 令和7年5月23日 学長就任
理事	小風 暁	常勤	令和2年3月27日就任
理事	馬場 一美	常勤	令和5年4月1日就任
理事	原 俊太郎	常勤	令和7年5月23日就任
理事	鈴木 久義	常勤	令和4年4月1日就任
理事	内田 樹	非常勤	平成23年4月1日就任 ※外部理事
理事	小出 良平	常勤	平成13年6月1日就任
理事	門倉 光隆	常勤	令和6年3月1日就任
理事	村上 雅彦	常勤	令和6年3月1日就任
理事	野中 明人	非常勤	平成28年4月1日就任 ※外部理事
理事	小川 良雄	常勤	平成29年4月1日就任
監事	小林 節	非常勤	平成21年5月29日就任
監事	飯島 裕之	非常勤	平成28年4月1日就任
監事	山本 登	非常勤	令和6年3月1日就任
監事	守屋 明俊	常勤	令和6年3月1日就任

※理事は業務執行役員ではない

[V 執行役員の概要]

(令和8年3月31日現在)

氏名	現職
泉崎 雅彦	昭和医科大学大学院医学研究科長
高見 正道	昭和医科大学大学院歯学研究科長
野部 浩司	昭和医科大学大学院薬学研究科長
三村 洋美	昭和医科大学大学院保健医療学研究科長
木内 祐二	昭和医科大学附属看護専門学校長
田口 彰彦	学校法人昭和医科大学事務局長
相良 博典	昭和医科大学病院長
村上 秀友	昭和医科大学病院附属東病院長
鈴木 洋	昭和医科大学藤が丘病院長
市川 博雄	昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院長
坂下 暁子	昭和医科大学横浜市北部病院長
横山 登	昭和医科大学江東豊洲病院長
真田 建史	昭和医科大学烏山病院長
榎 宏太郎	昭和医科大学歯科病院長

[VI 評議員の概要]

定員数 20名～24名

(令和8年3月31日現在)

氏名	寄附行為該当	主な現職等
矢持 淑子	第1号評議員	昭和医科大学医学部教授
船津 敬弘	第1号評議員	昭和医科大学歯学部教授
向後 麻里	第1号評議員	昭和医科大学薬学部教授
榎田 めぐみ	第1号評議員	昭和医科大学保健医療学部教授
齋藤 範	第1号評議員	昭和医科大学富士吉田教育部教授
大矢 敦	第1号評議員	学校法人昭和医科大学人事部長
高木 康	第2号評議員	昭和医科大学名誉教授
米山 啓一郎	第2号評議員	昭和医科大学名誉教授
高野 範之	第2号評議員	医療法人社団高野会理事長
小原 希生	第2号評議員	昭和医科大学歯学部兼任講師 昭和医科大学歯学部同窓会長 小原歯科医院院長
稲垣 雅彦	第2号評議員	インターハート(株)代表取締役社長 昭和医科大学薬学部同窓会長
京藤 聡弘	第2号評議員	昭和医科大学保健医療学部 兼任講師委嘱
田中 一正	第3号評議員	昭和医科大学名誉教授
横川 敏男	第3号評議員	社団法人蒲田医師会会長
新井 一成	第3号評議員	昭和医科大学名誉教授 医療法人社団喜一会理事長
高橋 春男	第3号評議員	昭和医科大学名誉教授 昭和医科大学医学部同窓会長
水川 啓子	第3号評議員	昭和医科大学兼任講師 医療法人同愛会
関矢 徹	第3号評議員	ヒトミ歯科院長
松澤 邦雄	第3号評議員	世田谷薬剤師会監事
鏑木 衡平	第3号評議員	社会福祉法人ぶどうの木ロゴス 点字図書館理事
與儀 美由紀	第3号評議員	昭和医科大学薬学部同窓会副会長
渡部 茂	第3号評議員	西中延二丁目町会会長 昭和医科大学病院・東病院顧問
小島 兼隆	第3号評議員	(株)雄電社代表取締役社長
大坪 由里子	第3号評議員	社会福祉法人寿康会理事長

任期：令和7年5月23日～令和11年度の最初に開催される評議員会終結の時まで

[VII 役員賠償責任保険契約の状況]

1. 責任免除に関する決議

学校法人の役員等の損害賠償責任の明確化を踏まえ、令和7年2月18日開催の理事会において、役員賠償責任保険契約の締結について決議されました。

2. 保険期間

令和7年4月1日～令和8年3月31日

3. 被保険者

理事・監事、評議員、執行役員（いずれも退職者を含む）

[VIII 会計監査人の概要]

1. 名称

新創監査法人

2. 任期

令和7年5月23日～令和8年度最初の定時評議員会終結の時まで

[IX 理事選任機関の概要]

理事選任機関は評議員会とし、構成員は全ての評議員とする。

[X 職員の概要]

1. 教育職員数

(令和7年5月1日現在)

学校・学部等	専任教育職員数							兼任
	学長	教授	准教授	講師	助教	教育職員	合計	
医学部	1	167	134	260	1,390	0	1,952	191
歯学部	0	27	25	38	159	0	249	157
薬学部	0	35	25	58	121	0	239	35
保健医療学部	0	33	35	134	0	0	202	57
看護専門学校	0	0	0	0	0	34	34	17
合計	1	262	219	490	1,670	34	2,676	457

2. 職員数

(令和7年5月1日現在)

学校・学部等	事務系	教務系	厚生 補導系	技術 技能系	医療系	その他	合計	兼務
法人部門	83	0	0	0	0	0	83	0
昭和医科大学医学部	35	4	7	3	0	0	49	0
昭和医科大学歯学部	33	0	5	5	0	0	43	0
昭和医科大学薬学部	54	2	14	5	0	0	75	0
昭和医科大学保健医療学部	40	3	6	5	0	0	54	0

看護専門学校	4	0	0	0	0	0	4	0
昭和医科大学病院	118	0	0	0	1,394	2	1,514	0
昭和医科大学病院附属東病院	26	0	0	0	179	0	205	0
昭和医科大学藤が丘病院	82	0	0	5	919	0	1,006	0
昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院	13	0	0	0	191	0	204	0
昭和医科大学横浜市北部病院	66	0	0	0	997	0	1,063	0
昭和医科大学江東豊洲病院	34	0	0	0	678	0	712	0
昭和医科大学烏山病院	19	0	0	3	179	0	201	0
昭和医科大学豊洲クリニック	2	0	0	0	0	0	2	0
昭和医科大学歯科病院	25	0	0	1	179	1	206	0
合 計	634	9	32	27	4,716	3	5,421	0

[XI 設置する学校・学部・学科]

(令和8年3月31日現在)

設置する学校	開校年月	学部・学科等	摘要
昭和医科大学	昭和27年4月	医学部・医学科	
	昭和52年4月	歯学部・歯学科	
	平成18年4月	薬学部・薬学科	薬学科、生物薬学科（4年制）を改組
	平成14年4月	保健医療学部・看護学科	
	平成14年4月	保健医療学部・理学療法学科	令和5年度募集停止
	平成14年4月	保健医療学部・作業療法学科	令和5年度募集停止
	昭和34年4月	大学院医学研究科（博士課程）	
	昭和58年4月	大学院歯学研究科（博士課程）	
	平成10年4月	大学院薬学研究科（博士前期課程）	修士課程を改組 平成22年度募集停止 平成23年4月廃止
	平成10年4月	大学院薬学研究科（博士後期課程）	博士課程を改組 平成23年度募集停止 平成26年12月廃止
	平成24年4月	大学院薬学研究科（博士課程）（4年制）	
	平成24年4月	大学院保健医療学研究科（博士前期課程）	修士課程を改組
	平成24年4月	大学院保健医療学研究科（博士後期課程）	
	平成24年4月	助産学専攻科	
令和5年4月	保健医療学部・リハビリテーション学科	理学療法学科、作業療法学科を改組	
看護専門学校	昭和39年4月	看護学科	

[XII 学校・学部・学科等の学生数の状況]

(令和7年5月1日現在)

学部・学校名		入学定員数	収容定員数	現員数	摘要	
学部	医学部	医学科	131	757	772	
	歯学部	歯学科	105	630	603	
	薬学部	薬学科	200	1,200	1,200	
	保健医療学部	看護学科	95	400	429	
		※3年次編入学	10			
		リハビリテーション学科				
		理学療法学専攻	35	140	153	
作業療法学専攻	25	100	53			
学部合計（編入学含む）		591	3227	3210		
大学院	医学研究科		60	240	285	
	歯学研究科		22	84	109	
	薬学研究科		15	57	103	
	保健医療学研究科（博士前期）		20	40	51	
	保健医療学研究科（博士後期）		6	18	17	
	大学院合計		114	434	565	
助産学専攻科		15	15	14		
看護専門学校	看護学科	150	450	449		

[XIII 志願者数、合格者数、入学者数（令和7年度入学者）]

学部・学校名		入学定員数	志願者数	合格者数	入学者数	
学部	医学部	医学科	131	4,397	269	131
	歯学部	歯学科	105	753	164	100
		(2年次編入学)	若干名	(19)	(9)	(7)
	薬学部	薬学科	200	894	362	209
	保健医療学部	看護学科	95	656	204	106
		(3年次編入学)	(10)	(6)	(5)	(5)
		リハビリテーション学科 理学療法専攻	35	171	82	44
リハビリテーション学科 作業療法専攻		25	35	30	12	
学部合計 (編入学)		591 (10)	6,906 (25)	1,111 (14)	602 (12)	
大学院	医学研究科	60	57	56	56	
	歯学研究科	22	38	35	33	
	薬学研究科（4年制）	15	20	16	16	
	保健医療学研究科（博士前期）	20	29	22	22	
	保健医療学研究科（博士後期）	6	7	6	6	
	大学院合計		123	151	135	133
助産学専攻科		15	87	14	14	
看護専門学校	看護学科	150	241	191	144	

[XIV 卒業・修了者数（令和7年度）]

1. 学部

学部	学科	卒業者数
医学部	医学科	123
歯学部	歯学科	93
薬学部	薬学科	168
保健医療学部	看護学科	115
	理学療法学科	29
	作業療法学科	16
合計		544

2. 大学院

研究科	修了者数
医学研究科	28
歯学研究科	22
薬学研究科	15
保健医療学研究科（博士前期課程）	16
保健医療学研究科（博士後期課程）	2
合計	83

### 3. 専攻科

専攻科	修了者数
助産学専攻科	14

### 4. 附属学校

学校名	卒業生数
看護専門学校	139

## [XV 国家試験結果（令和7年度）]

### 1. 学部

#### ①第120回医師国家試験（合格発表：令和8年3月16日）

	新卒	既卒	総数	全国	全私立大学
受験者数	123	11	134	9,980	3,672
合格者数	116	7	123	9,139	3,397
合格率	94.3%	63.6%	91.8%	91.6%	92.5%

#### ②第119回歯科医師国家試験（合格発表：令和8年3月16日）

	新卒	既卒	総数	全国	全私立大学
受験者数	93	7	100	2,837	2,096
合格者数	88	2	90	1,757	1,231
合格率	94.6%	28.6%	90.0%	61.9%	58.7%

#### ③第111回薬剤師国家試験（合格発表：令和7年3月25日）

	新卒	既卒(※)	総数	全国	全私立大学
受験者数	168	21 (1)	190 (1)	12,774	11,762
合格者数	144	13 (0)	157 (0)	8,749	7,931
合格率	85.7%	61.9% (0%)	82.6% (0%)	68.5%	67.4%

※ () は、旧4年制卒業生

#### ④第115回看護師国家試験（合格発表：令和8年3月24日）

	新卒	既卒	総数	全国(大学)
受験者数	106	0	106	59,614
合格者数	99	0	99	52,666
合格率	93.4%	-	93.4%	88.3%

#### ⑤第112回保健師国家試験（合格発表：令和8年3月24日）

	新卒	既卒	総数	全国(大学)
受験者数	20	0	20	7,467
合格者数	16	0	16	6,502
合格率	80.0%	-	80.0%	87.1%

⑥第 61 回理学療法士国家試験（合格発表：令和 8 年 3 月 23 日）

	新 卒	既 卒	総 数	全 国
受験者数	29	1	30	12,436
合格者数	29	1	30	11,156
合 格 率	100.0%	100.0%	100.0%	89.7%

⑦第 61 回作業療法士国家試験（合格発表：令和 8 年 3 月 23 日）

	新 卒	既 卒	総 数	全 国
受験者数	16	1	17	5,426
合格者数	15	0	15	4,947
合 格 率	93.8%	0.0%	88.2%	91.2%

2. 看護専門学校

①第 115 回看護師国家試験（合格発表：令和 8 年 3 月 24 日）

	新 卒	既 卒	総 数	全 国
受験者数	139	3	142	59,614
合格者数	129	3	132	52,666
合 格 率	92.8%	100.0%	93.0%	88.3%

3. 助産学専攻科

①第 109 回助産師国家試験（合格発表：令和 8 年 3 月 24 日）

	新 卒	既 卒	総 数	全 国
受験者数	13	0	13	2,046
合格者数	13	0	13	2,040
合 格 率	100.0%	-	100.0%	99.7%

## 第2章 事業の概要（重点目標と主要事業）

### 第1部（令和7年度事業計画実施報告）

#### [I. 法人]

##### (1) 校名変更

令和7年度より校名を「昭和医科大学」に変更し、新校名の周知を図るため、広報活動を行いました。これにより、本学が医系総合大学であることを明確に発信し、社会に貢献できる優れた医療人を育成する大学としてのブランド力向上を図りました。

##### (2) 創立100周年記念事業

令和10年の創立100周年に向け、準備委員会を中心に準備を進め、各小委員会において、記念式典・祝賀会の開催、記念イベントの実施、記念誌の発行、記念碑の作成、広報等について、具体的な内容や実施方法の検討を行いました。

##### (3) 旗の台キャンパス 整備事業

旗の台校舎の整備に向けて、キャンパス周辺に所有する校地を含めた旗の台キャンパス内施設配置計画の検討を進め、大学施設および病院施設の整備計画を検討しました。

##### (4) 鷺沼キャンパス 整備事業

医学部、歯学部、薬学部の2、3年次と4年次の一部、保健医療学部の2～4年次および助産学専攻科の学生が学ぶ、鷺沼キャンパス整備工事が令和6年10月に着工し、令和7年度も引き続き、令和9年度開校に向けて計画どおり建設を進めました。

##### (5) 藤が丘病院再整備計画

都市計画について、横浜市、東急株式会社と連携を図りながら、条例縦覧・法定縦覧および横浜市都市計画審議会に向けて手続きを進め、令和7年12月に藤が丘駅地区の都市計画決定および土地区画整理事業が認可されました。引き続き病院再整備に向けた実施設計や確認申請の協議および先行工事の計画・実施について検討を進めてまいります。

##### (6) 富士吉田キャンパス整備計画

令和6年度に着工した新実習棟（2号館）は順調に工事が進み、令和8年1月30日に竣工しました。新実習棟には形態機能実習用のアナトマージテーブルが20台設置され、令和8年度より新しいカリキュラムを実施する準備を整えました。

(7) 歯科病院 旗の台移転事業

旗の台キャンパス整備事業の一環として計画している歯科病院の移転について、引き続き関連事業の進捗を踏まえ、対応を進めてまいります。

(8) 保健医療学部 新学科等設置・再編事業

令和9年度開設予定であるリハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻および同視覚機能療法学専攻については指定申請を令和8年5月に、学則変更の届出を令和8年8月から12月の間に行うための準備を進めました。また、医療技術学科診療放射線技術学専攻、同臨床工学専攻、同歯科衛生学専攻については、令和8年3月6日に文部科学省に設置認可申請書類一式を提出しました。指定申請を令和8年5月に行います。

(9) 横浜キャンパス 看護専門学校設置事業

令和9年4月の開校に向けて、各種認可申請を進めました。令和7年6月、神奈川県へ学校設置計画書を提出し、10月に認可を取得しました。これを受け、学校設置認可申請書の作成に取掛り、令和8年3月に提出を完了しました。また、文部科学省への指定申請を行うための準備書面も作成し、提出準備を整えました。申請書作成と並走し、志願者の確保のための広報活動を開始しました。

[Ⅱ. 教育]

(1) 新しいカリキュラムの構築

各学部、富士吉田教育部の教育職員を構成員とする「カリキュラム2026検討部会」にて、令和8年度1年生から開始する臨床教育を拡充する全学部の新たなカリキュラムを検討しました。初年次および2年次以降のワーキンググループで全学年のカリキュラムを構築し、関連の資料（履修要項および別表、3つのポリシー、1年次シラバスなど）を整えました。

(2) リハビリテーション学科新専攻設置準備およびカリキュラムの構築

令和9年度開設予定であるリハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻および同視覚機能療法学専攻については、カリキュラム構築、教員候補者の決定が概ね完了しました。指定申請を令和8年5月に、学則変更の届出を令和8年8月から12月の間に行います。

(3) 医療技術学科設置準備およびカリキュラムの構築

令和9年度開設予定である医療技術学科診療放射線技術学専攻、同臨床工学専攻、同歯科衛生学専攻については、カリキュラム構築および教員候補者を決定し、令和8年3月6日に文部科学省へ設置認可申請書類一式を提出しました。

### [Ⅲ. 研究]

#### (1) 研究分野のセンター化

鷺沼キャンパス整備検討委員会の下部組織として「研究センター設置準備検討部会」が設置され、鷺沼キャンパスにおける5センター化に向けた組織体制、移設準備等について、検討を行いました。

#### (2) 競争的資金獲得のための支援

統括研究推進センター内に設置した競争的研究費獲得戦略策定WGを中心に、科研費獲得に向けた説明会、セミナーを企画・開催し、研究費獲得に向けた施策の検討と支援を行いました。

#### (3) 研究活動促進のための支援

学内研究費の一部を活用した研究助成制度については、継続した助成を行うとともに、令和8年1月からは、オープンアクセス論文掲載料の免除または割引による支援を開始しました。また、統括研究推進センターの研究支援専門職（URA）やアドバイザーによる調書作成支援を行い、外部資金の採択率向上に向けた取り組みを行いました。

#### (4) 研究マインドの醸成のための取り組み

大学院生（学部学生も可）を対象とした「大学院カフェ」を開催し、大学院生のキャリア支援および研究スキルの向上に努めました。また、海外での研究を検討している教員・学生を対象とした「留学者交流会」を開催し、国際共同研究を推進できる人材の育成に努めました。

#### (5) 臨床研究の推進および質の向上

臨床研究申請システムおよび利益相反申告システムを活用するとともに、法令等の改正にあわせた手順書の見直しを行いました。

#### (6) 産学官金連携の推進

包括連携協定大学とは、研究マッチングイベント、イノベーション交流会を開催し、研究者間の交流および共同研究の推進に努めました。令和8年2月には、富士山GXホールディングス株式会社および富士吉田市と新たに包括連携協定が締結され、企業・地域社会との共同研究により地域と医療の持続的な発展にむけた第一歩を踏み出しました。

#### [IV. 国際交流]

##### (1) 国際交流活動の強化

海外選択実習、初年次スタディ アブロード プログラム（オックスフォード大学 ハートフォードカレッジ夏季研修）及びカンボジア・スタディツアー等、95名の学生を海外実習・研修に送り出しました。また、薬学部では学部間協定校であるマハサラカム大学とオンラインによる同窓会を行いました。

##### (2) 留学生の受け入れ体制強化

学部留学生54名、大学院留学生26名を受け入れ、Chat Club や Winter Party 等を行い、本学の学生との交流機会を提供しました。また、外国人宿舎の老朽化したベッドを入れ替え、留学生の生活環境を整えました。

##### (3) 海外の研究者との交流活動の活性化

10名の招聘研究者を受け入れ、講演会を行い、本学との交流活動を促進しました。

##### (4) 他大学との連携推進

今年度は、新たにタイの3大学と協定を締結しました。英語版の大学紹介パンフレットや動画の改訂版を作製し、海外からの来訪者や海外の大学で紹介しています。News Letter も年4回発行し本学の国際交流活動について発信しました。

#### [V. 診療]

##### (1) 昭和医科大学統括がん情報センターの設置

昭和医科大学病院に昭和医科大学統括がん情報センターを設置しました。昭和医科大学附属5病院におけるがん診療情報を一元的に統括・管理する体制を整備するとともに、人工知能（AI）技術を積極的に活用し、がん情報の解析・可視化等を通じて、質の高いがん診療の提供に向けた体制構築を進めました。

##### (2) 昭和医科大学病院国際健康推進センターの設置

昭和医科大学病院に国際健康推進センターを設置しました。現在は中国系業者3社と連携し、海外からの健康診断受入れを行っています。また、令和8年3月には2名の健診申込を受けています。加えて、日本企業で医療ツーリズムを取り扱う事業者との提携に向けた調整も進めており、受入体制の拡充に取り組んでいます。

##### (3) 新規入院患者の増加

令和7年度病院活性化推進委員会「1次・2次救急体制検証プロジェクト」の答申に従い、1次・2次救急の人員配置と診療体制を検討し、「待たせない・断らない診療体制」を実現させるため、総合・救急診療科主導のもと、全例応需を原則として救急受入を推進しました。

#### (4) 労務環境の改善

医療従事者の業務負担を軽減するため、手術室に臨床工学技士を配置し、看護師が担っている器械出し業務の一部を臨床工学技士が担当し、看護師の業務負担の軽減を実現しました。また、救急外来に救急救命士を配置し、救急初期対応業務の一部を担当し、医師および看護師の業務負担を軽減するとともに、専門職の能力を活かしたチーム医療体制の強化に努めました。

#### (5) 電子カルテの更新

都内附属病院の患者 ID を統合するとともに、江東豊洲病院と烏山病院の電子カルテをクラウド化し、1つのシステムとして稼働するよう更新しました。また、江東豊洲病院に仮想基盤を構築し、歯科病院の電子カルテや3病院で利用する部門システムを稼働させ機器の効率化を図りました。さらに、2要素認証やEDR (Endpoint Detection and Response) システムを導入し、セキュリティの向上を実現しました。

#### (6) 中長期計画に則した機器更新、工事・建物設備維持管理の実施

附属病院の耐震補強工事、消火設備の更新、外壁大規模修繕など、設備整備を中長期計画に則り実施しました。また、建物設備についても安全面に配慮し、経年劣化に伴い補修や維持管理を計画的に実施しました。

### [VI 管理運営の充実]

#### 1. 管理運営体制の整備と円滑な法人運営

##### (1) 寄附行為の改正

令和7年4月1日施行の私立学校法の改正に伴い、寄附行為を改正しました。また、校名変更に伴い、寄附行為の名称を「学校法人昭和大学寄附行為」から「学校法人昭和医科大学寄附行為」へ変更しました。これにより、法改正への対応および校名変更に伴う規程の整備を行いました。

##### (2) 活性化推進の活動

令和7年度は、法人・大学活性化推進委員会に3つ、病院活性化推進委員会に3つのプロジェクトを設置し、これらのプロジェクトからの答申を法人・大学および病院の運営方針に反映させました。

#### 【法人・大学活性化推進委員会】

①	保健医療学部新学科・新専攻、横浜看護専門学校の入学志願者増加対策検討プロジェクト
②	(1) 1年次指導担任制度改革検討プロジェクト (2) 指導担任制度（1年次を除く）改革検討プロジェクト
③	創立100周年記念 特別広報戦略検討プロジェクト

【病院活性化推進委員会】

①	昭和医科大学病院の外来ブース有効活用・運用検討プロジェクト
②	1次・2次救急体制検証プロジェクト
③	一般病棟（戻りベッド）運用見直し検討プロジェクト

(3) 創立100周年記念事業募金の推進

創立100周年記念事業の実現に向け、記念事業募金の推進を行いました。創立100周年記念事業の更なる周知を図るため、ホームページを活用した情報発信に加え、学生後援会での資料配布や寄付パンフレットの更新を行いました。これにより、募金活動の周知強化と財源確保に向けた取組を進めました。

(4) 創立100周年記念学校債募集の推進

創立100周年記念事業を円滑に実行するため、令和6年7月より創立100周年記念学校債の発行を開始しました。広く周知を行い、募集を進めた結果、目標額である10億円を達成しました。これを受け、事業の推進を目的として第2期の学校債発行を開始し、引き続き募集を進めています。

2. 施設設備の整備・活用

(1) デジタル環境の再整備

教育系・事務系システムについて老朽化した装置の更新を行うとともに、鷺沼キャンパスのネットワーク設計、富士吉田キャンパスの新実習棟のネットワーク構築を行いました。附属病院を都内と横浜の2グループに分け、各グループで利用する画像管理システム(PACS)を更新し、AI読影機能を搭載しました。

(2) 校地・校舎の取得

【資産取得（校地）】

(取得日順)

旗の台校舎 近隣地	
所在 / 地番 地目 / 地積 原因	品川区旗の台1丁目996番2, 3, 4, 8 宅地 / 804.77㎡ 令和7年9月19日 売買取得

【資産取得（建物）】

旗の台校舎 近隣地	
所在 / 家屋番号 延床面積 原因	品川区旗の台1丁目996番3/996番3の4 65.15㎡ 令和7年9月19日 売買取得

### (3) 富士吉田寮の活用

富士吉田寮を宿泊施設として活用開始してから、2年が経過しました。この間、職員を対象としたワークショップ、外部研修会、学生の部活動合宿等において活用され、延べ約1,000人が利用しました。特に、東日本医科学生総合体育大会（馬術大会）開催時の宿泊施設としての利用や、保健医療学部と協定校であるタイ・ワライラック大学との交流の場としても活用され、多様な用途に対応する施設として有効に機能しています。

## 3. 福利厚生の充実

### (1) 公認サークルの充実

平成23年度から設置された公認サークルは、スポーツ系、音楽系、料理・食文化系、ガーデニング、外国語・外国文化研究等、幅広い分野のサークルを公認しています。令和7年度も対面での懇親会を行い、各サークルの活動状況を共有し、さらなる活動の拡大に努めました。

#### 【サークル数】

年 度	サークル数
令和4年度	76
令和5年度	69
令和6年度	66
令和7年度	76

## 4. 他大学・地域との連携強化・充実

### 【大学との連携内容一覧（協定締結順）（令和7年度実施した活動）】

大学名	協定締結日	連携内容
学校法人 五島育英会 東京都市大学	平成20年3月26日	①工学部医用工学科実習の受け入れ 東京都市大学 理工学部医用工学科 臨床工学技士実習の対応を行いました。 ②共同研究の実施（11件） ・鼻粘膜画像から所見を判断する手法の研究 ・新規小児剤形に適した計量器具の開発 ・人工知能(AI)による脳形成異常の遺伝素因解明と画像診断 ・音声人工知能の活用によって開鼻声の重症度を自動評価する技術の開発 ・口腔筋機能療法(MFT)前後の顔ランドマーク特徴点を用いた動画解析 ・心拍変動解析による不眠分析 ・改良型PAM染色とCLEM統合AI解析による腎疾患の次世代病理診断支援技術の開発

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・介助動作の技能差分析に関する AI 活用の試み</li> <li>・多孔質ガラスを用いたラマン分光技術の開発</li> <li>・生体試料分析用基盤の表面改質</li> <li>・モーションキャプチャーシステムを用いた顎運動解析による全身麻酔下での開口障害メカニズムの解析</li> </ul>
学校法人 京都橘学園	平成24年1月16日	<p>①連携講座「歴史遺産への招待」開講 本学1年次に対する選択科目として、京都の歴史遺産（建造物・仏像・史跡・庭園）に対してコース別で学外見学にてグループ学修を行った後、各自が関心を持ったテーマに対して、最終日に発表を行いました。</p>
学校法人 多摩美術大学	平成28年10月27日	<p>①校医・産業医および精神科医の派遣 多摩美術大学からの委嘱に基づき、校医・産業医および精神科医を派遣しました。</p> <p>②連携講座 「感性を掘り下げる色彩と造形」開講 本学1年次に対する選択科目として開講しました。 多摩美術大学において実施され、人間性を豊かにする[感性]を考え・学ぶため、色彩表現と造形表現の体験を通して、その魅力と自身の中にある可能性や個性を発見することを目的に、作品制作の実習や演習を行い、各作品制作後にグループディスカッションを、最後に授業のまとめとして受講者一人ずつ発表を行いました。</p> <p>③昭和医科大学メディカルデザイン研究所の設置 医療分野におけるデザインの研究を通して、患者や医療従事者のQOLの向上に寄与することを目的に設置しました。</p>
学校法人 洗足学園	平成29年2月28日	<p>①昭和医科大学リカレントカレッジ入学式における演奏協力 洗足音楽大学音楽部 荒 庸子 教授・川崎 智子 講師に演奏協力をいただきました。</p> <p>②昭和医科大学入職式における演奏・公演協力 洗足学園音楽大学ミュージカルコースの学生によるパフォーマンスを披露していただきました。</p> <p>③洗足学園音楽大学バレエコース講義への講師派遣 洗足学園音楽大学からの委嘱に基づき、「解剖学」「運動生理学」「動作学」「栄養学」に講師を派遣しました。</p> <p>④連携講座「療法的な音楽活動」開講 本学1年次に対する選択科目として開講しました。</p>

		<p>⑤共同研究（２件）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バレエダンサー・音楽家の健康実態調査と動作解析</li> <li>・バレエダンサーの下肢関節痛発症メカニズム解明に向けたバレエ基本動作の生体力学的解析</li> </ul> <p>※昭和医科大学スポーツ運動科学研究所との共同研究を含む</p>
学校法人 日本体育大学	平成30年6月6日	<p>①昭和医科大学藤が丘病院による診療協力</p> <p>昭和医科大学藤が丘病院と日本体育大学とで「診療協力確認書」を締結し、日本体育大学所属の学生および教職員に対する速やかな診療の実施や、日本体育大学健康管理センターに対して医療面でのアドバイスをを行っています。</p> <p>②昭和医科大学スポーツ運動科学研究所職員によるメディカルチェックの実施</p> <p>日本体育大学ラグビー部・アメフト部所属選手の身体管理・医療サポート・データ集積を目的にメディカルチェックを実施しました。</p> <p>③日本体育大学保健医療学部「産婦人科学」への講師派遣</p> <p>日本体育大学からの委嘱に基づき、「産科・女性診療学」に講師1名を派遣しました。</p> <p>④共同研究（３件）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症における発症メカニズムの解明と予防法の開発～マウス実験動物とヒト健常者を用いた検討～</li> <li>・アスリート特有の健康課題と薬局・薬剤師との関わりの現状調査</li> <li>・脳損傷モデルマウスを用いた運動麻痺の回復に関わる因子の探索～運動麻痺からの回復に向けた運動療法の創出～</li> </ul>
学校法人 東京農業大学	平成30年8月2日	<p>①東京情報大学看護学部からの実習受け入れ</p> <p>学校法人東京農業大学が有する、東京情報大学看護学部看護学科の看護師実習に対応を行いました。</p> <p>②昭和医科大学横浜自然教育園整備への協力</p> <p>本学横浜自然教育園の整備にあたり、樹種の選定や学務員の採用紹介等にご協力いただきました。</p> <p>③リカレントカレッジでの授業開講</p> <p>「東京の庭園の魅力」の開講の協力を仰ぎました。</p> <p>④共同研究（１０件）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・胎児期の環境ストレスによる次世代神経発達障害の機序解明</li> <li>・農医学連携による社会還元促進を目指した MASLD/MAS 病態解析と食品栄養学的介入の検討</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人における食物アレルギー患者の腸内細菌叢メタゲノム解析により将来的な治療標的の探索を目指す医農連携研究</li> <li>・食品由来難消化性タンパクを用いた腸内細菌代謝制御による抗腫瘍免疫作用の検討</li> <li>・複合的環境ストレスによる神経発達障害機序の解明</li> <li>・精神障害に関わる脳代謝とミネラルの関連の解明</li> <li>・薬草ハシリドコロ (Scopolia Japonica) によるロート根の国産化に向けた基盤的研究</li> <li>・妊娠胎生期の栄養素過不足に伴う母子の腸内細菌叢変化と仔マウスにおける脳腸相関に及ぼす影響</li> <li>・婦人科系疾患に用いる漢方薬のエストロゲン活性に対する影響</li> <li>・プレドニゾロンに対する苦味感受性の個人差とその分子基盤に関する研究～小児の服薬困難の解決に向けて</li> </ul>
学校法人 昭和女子大学	令和7年12月19日	①研究マッチングイベントの実施、他大学とのマッチングイベントへの聴講についての具体的な研究相談を行いました。

## 5. 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

### 【中期的な計画】

中期計画策定委員会の下で令和6年度に学校法人昭和大学中期計画（令和2年度～6年度）の各領域で策定された行動目標、付随する各行動計画を4段階で評価しました。その評価結果を基に策定された新たな学校法人昭和医科大学中期計画（令和7年度～11年度）が理事会で承認されました。今後も中期計画に基づき各事業を推進してまいります。

### 【令和7年度事業計画】

#### 1. [法人]

##### 1) 医療機器等

- (1) 旗の台、横浜、富士吉田キャンパス AED の更新

##### 2) 施設設備

- |  |   |
|--|---|
| <p>(1) 富士吉田キャンパスネットワーク装置更新 (3/3期)</p> <p>(3) 2025年度学術情報ネットワーク装置更新</p> <p>(5) 附属病院間ネットワーク接続/統合 (2/2期)</p> <p>(7) 医療画像先進診断センターシステム構築</p> <p>(9) 昭和医科大学病院再整備計画検討業務</p> <p>(11) 旗の台キャンパス1号館外壁補修工事</p> <p>(13) ゲストハウスエアコン設置工事</p> | <p>(2) 富士吉田キャンパス新実習棟ネットワーク</p> <p>(4) 鷺沼キャンパスネットワーク設計</p> <p>(6) 都内3病院電子カルテ更新 (2/2期)</p> <p>(8) 附属病院総合看護システム更新</p> <p>(10) 長津田寮耐震補強設計及び補強・改修工事</p> <p>(12) 旗の台キャンパス5号館屋上モジュールチラー整備工事 (2/3期)</p> <p>(14) 旗の台キャンパス1号館1階秘書課空調機更新工事</p> |
|--|---|

- |                                    |                                  |
|------------------------------------|----------------------------------|
| (15) 旗の台キャンパス1号館2号機エレベーター巻き上げ機更新工事 | (16) 旗の台キャンパス6号館外壁補修工事           |
| (17) 第二旗の台寮屋上防水、外壁補修工事             | (18) ハローウエスト藤が丘屋上防水・外壁補修工事       |
| (19) 旗の台キャンパス15号館外壁補修工事            | (20) 白樺寮屋上防水・外壁補修工事              |
| (21) 横浜北部南棟屋上防水、外壁塗装補修工事           | (22) 富士吉田キャンパス体育館外壁補修工事          |
| (23) 旗の台キャンパス10号館1号棟外壁補修工事         | (24) 旗の台キャンパス3号館外壁補修工事           |
| (25) 大学病院特高変電設備更新計画設計料             | (26) 横浜自然教育園井戸掘削工事               |
| (27) 鷺沼キャンパス校舎建築工事                 | (28) 富士吉田キャンパス新実習棟建築工事           |
| (29) 旗の台キャンパス16号館空調設備整備工事(1/2期)    | (30) 旗の台キャンパス2号館マルチパッケージ整備工事     |
| (31) 旗の台キャンパス建物補修予備費               | (32) 富士吉田自然教育園ピオトープ整備計画(3/5期)    |
| (33) 富士吉田自然教育園林地整備計画(4/4期)         | (34) プロジェクト全体統括合意形成支援業務          |
| (35) 設計業務(2025年度病院等実施設計業務分)        | (36) 設計業務(各種実施設計補完業務分)           |
| (37) 調査業務(地盤調査・土壌汚染調査分)            | (38) 都市計画関連業務                    |
| (39) 藤が丘病院再整備計画 設計業務(土地区画整理事業関連業務) | (40) 藤が丘病院再整備計画 駅前広場の容積融通の対価分    |
| (41) 会計・固定資産システムのリプレース(3/3期)       | (42) 富士吉田馬場 進入路改良舗装工事            |
| (43) 旗の台キャンパス整備計画検討業務              | (44) 横浜キャンパス整備計画検討業務             |
| (45) 事務局PC更新(旗の台校舎)                | (46) 事務局PC更新(看護専門学校)             |
| (47) 事務局PC更新(富士吉田校舎)               | (48) 事務局PC更新(長津田校舎)              |
| (49) 研究装置整備事業                      | (50) 教育装置整備事業                    |
| (51) ICT活用推進事業                     | (52) 研究設備整備事業                    |
| (53) 教育基盤設備整備事業                    | (54) 研究費システム更新                   |
| (55) 1階上條ホール予備プロジェクター              | (56) 保健医療学部新学科・新専攻における学生募集の準備のため |
| (57) 富士吉田校舎新実習棟機器備品購入              | (58) 入学志願者募集強化に向けた広告等活動費         |
| (59) 鷺沼キャンパス ネットワーク構築(1/2期)        |                                  |

### 3) 土地取得

- (1) 土地取得

## 2. [昭和医科大学病院]

### 1) 医療機器等

- |                          |                       |
|--------------------------|-----------------------|
| (1) サイバーセキュリティ対策(システム導入) | (2) サイバーセキュリティ対策(回線費) |
| (3) 電子処方箋導入 新規           | (4) 再来受付機 更新          |
| (5) 離床センサーナースコールユニット 追加  | (6) 鼻科内視鏡手術システム 更新    |
| (7) 超音波診断装置 更新           | (8) 画像診断ワークステーション 新規  |
| (9) 透析監視装2台 更新           | (10) 搬送用人工呼吸器 更新      |
| (11) タイムラプスインキュベーター 更新   | (12) 救命救急センター施設整備     |
| (13) NBC 災害対応策設備整備補助事業   | (14) 周産期母子医療センター補助金   |
| (15) OA 端末204台 更新        |                       |

## 2) 施設設備 (中央棟)

- (1) 消火設備更新 (4/4期)
- (2) 圧縮空気コンプレッサーアフタークーラー更新 (2/2期)
- (3) ボイラー更新 (1/4期)
- (4) 中央棟8階A病棟トイレ/シャワー室改修

## 3) 施設設備 (入院棟)

- (1) ナースコール設備更新 (2/3期)
- (2) 各階ファンコイル更新及び洗浄工事 (6/6期)
- (3) 冷温水発生機分解整備 (5/6期)
- (4) 消火設備更新 (4/4期)
- (5) B3/MB3階ハロンダンパー更新 (1/3期)
- (6) 3/4/6/10/12階PAC更新 (1/2期)

## 3. [昭和医科大学病院附属東病院]

### 1) 医療機器等

- (1) 可搬式手術顕微鏡 更新
- (2) サイバーセキュリティ対策 (システム導入)
- (3) サイバーセキュリティ対策(回線費)
- (4) 除細動器 更新
- (5) 電子処方箋導入
- (6) 再来受付機更新
- (7) 旗の台キャンパス東病院非常用発電機の部品交換

## 2) 施設設備

- (1) ナースコール更新工事

## 4. [藤が丘病院]

### 1) 医療機器等

- (1) サイバーセキュリティ対策(システム導入)
- (2) サイバーセキュリティ対策(回線費)
- (3) 放射線画像システム (2/2期)
- (4) 電子カルテ用ネットワーク
- (5) 電子処方箋の導入
- (6) 外来表示盤システム
- (7) 注射薬自動払出装置2式
- (8) 造影剤自動注入器1台
- (9) 経皮的心肺補助装置 (PCPS) 1台
- (10) 人工呼吸器1台
- (11) 長時間心電図解析装置1台
- (12) 個人用透析装置1台
- (13) フライトタイプ洗浄機1台
- (14) MR8軌道式ハイスピードドリル2式
- (15) 超音波画像診断装置1台
- (16) パルスフィールドアブレーションシステム1台

## 2) 施設設備

- (1) B棟耐震補強工事費用
- (2) No. 1UPS バッテリー交換工事
- (3) 手術室No. 4 エアコン更新工事

## 5. [藤が丘リハビリテーション病院]

### 1) 医療機器等

- (1) サイバーセキュリティ対策(システム導入)
- (2) サイバーセキュリティ対策(回線費)
- (3) 放射線画像システム更新 (2/2期)
- (4) 電子カルテ用ネットワーク機器
- (5) 電子処方箋の導入
- (6) 外来表示盤システム
- (7) 高圧蒸気滅菌装置1台
- (8) フライトタイプ洗浄機1台

## 2) 施設設備

- (1) エレベーター改修工事 (1/3期)

## 6. [横浜市北部病院]

### 1) 医療機器等

- (1) 超音波診断装置 (産婦人科)
- (2) 超音波診断装置 (各科共有)
- (3) 超音波診断装置 (内科病棟)
- (4) 超音波診断装置 (整形外科外来)
- (5) 人工心肺装置
- (6) 経皮的心肺補助装置
- (7) 心腔内留置ポンプカテーテル用制御装置
- (8) 神経機能検査装置
- (9) ミニCアーム
- (10) 眼撮影装置
- (11) 重要パラメータ付き多項目モニター
- (12) 乳房用X線診断装置
- (13) 据置型汎用X線診断装置
- (14) 補助循環装置
- (15) 血液透析装置
- (16) 搬送用人工呼吸器
- (17) NPPV人工呼吸器
- (18) 除細動器
- (19) 全身麻酔器
- (20) 調乳水製造装置
- (21) 手術用无影灯
- (22) オペタイマー
- (23) 手術映像システム
- (24) 電子処方箋の導入
- (25) PACS更新 (2/2期)
- (26) サイバーセキュリティ対策(システム導入)
- (27) サイバーセキュリティ対策(回線費)

## 2) 施設設備

- (1) 冷熱源設備更新 (2/3期)
- (2) 外壁大規模修繕 (4/4期)
- (3) ナースコール更新 (5/5期)
- (4) 消防設備更新 (西棟)
- (5) 消防設備更新 (中央棟)
- (6) W2病棟 FCU更新

## 7. [江東豊洲病院]

### 1) 医療機器等

- (1) PACS更新 (3/3期)
- (2) セントラルモニタの更新 (手術室・ICU) (1/2期)
- (3) 周産期母子医療センター補助事業
- (4) 4Kカメラシステム
- (5) 血行動態モニタリング
- (6) 除細動器
- (7) サイバーセキュリティ対策(システム導入)
- (8) サイバーセキュリティ対策(回線費)

## 2) 施設設備

- (1) なし

## 8. [豊洲クリニック]

### 1) 医療機器等

- (1) デジタル一般撮影機器更新
- (2) サイバーセキュリティ対策(システム導入)
- (3) サイバーセキュリティ対策(回線費)

## 2) 施設設備

- (1) 空調機PAC 更新工事

## 9. [烏山病院]

### 1) 医療機器等

- (1) 医用テレメーター 新規
- (2) 超音波画像診断装置 新規
- (3) PACS 皿新 (3/3期)
- (4) サイバーセキュリティ対策(システム導入)
- (5) サイバーセキュリティ対策(回線費)
- (6) 自動体外式除細動器

### 2) 施設設備

- (1) 中央棟外壁工事(1/3期)

## 10. [歯科病院]

### 1) 医療機器等

- (1) サイバーセキュリティ対策(システム導入)クリニック
- (2) サイバーセキュリティ対策(システム導入)
- (3) 都内附属病院 PACS 統合 (3/3期)
- (4) Kick ナビゲーションシステム
- (5) アーム型 X 線 CT 診断装置
- (6) 自動体外式除細動器
- (7) サイバーセキュリティ対策(回線費)クリニック
- (8) サイバーセキュリティ対策(回線費)

### 2) 施設設備

- (1) 3号棟屋上防水塗装・外壁防水工事
- (2) 1号棟電話交換機設備更新
- (3) 1号棟空調機更新工事 (1/5期)
- (4) 1号棟FCU 更新工事 (1/5期) (3階西・4階西)
- (5) 4号棟エレベーターリニューアル工事

## 11. [歯科内科クリニック]

### 1) 医療機器等

- (1) なし

### 2) 施設設備

- (1) なし

## 第2部（本学の事業）

### I 主な教育・研究の概要

#### 1. 卒業の認定に関する方針

##### （1）大学

医系総合大学である昭和医科大学では、「至誠一貫」の精神を体現する社会に貢献する優れた医療人の育成を目的とし、その目的を達成するためのカリキュラムを通して、以下に関する基本的能力を身につけた者に対して学位を授与しています。

（昭和医科大学ディプロマ・ポリシー）

- ・プロフェッショナリズム
- ・コミュニケーション能力
- ・患者中心のチーム医療
- ・専門的実践能力
- ・社会的貢献
- ・自己研鑽
- ・アイデンティティ

##### （2）大学院

昭和医科大学大学院では、「至誠一貫」の精神のもと、より高度な医・歯・薬・保健医療学研究に取り組み、国民の健康増進と福祉に寄与できる優れた人材を育成することを目標とし、以下の能力を有する者に、博士の学位を授与しています。

（昭和医科大学大学院ディプロマ・ポリシー）

- ・医療、健康、生命科学に関する深い学識と専門性、高度な思考・判断能力を有する。
- ・多様な学術的連携、協調をもち、先端的、独創的に研究推進する能力を有する。
- ・円滑なコミュニケーションのもと、成果を社会へ情報発信できる能力を有する。
- ・生涯にわたり研鑽をし、社会との架け橋となる自覚を有する。
- ・研究者、医療従事者等として強い責任感と高い倫理観をもち、医療、生命科学分野の発展に寄与する能力を有する。

#### 2. 教育課程の編成及び実施に関する方針

##### （1）大学

医系総合大学である昭和医科大学では、「至誠一貫」の精神のもと、ディプロマ・ポリシーで掲げた基本的能力を身につけるために必要な体系的・段階的に編成した講義・演習・実習等のカリキュラムを展開しています。また、学修成果を評価することにより、教育内容等の改善を行い、教育の質の向上（よりよい教育の実現）に努めています。

##### （2）大学院

昭和医科大学大学院では、「至誠一貫」の精神のもと、ディプロマ・ポリシーで掲げた能力を身に着けるために、授業科目の講義・演習・実習及び研究・学位論文作成の指導を行っています。

### 3. 入学者の受入れに関する方針

#### (1) 大学

医系総合大学である昭和医科大学は、「至誠一貫」の精神を体現する医療人の育成を目的に次のような学生を広く求めています。

(昭和医科大学アドミッション・ポリシー)

- ・常に真心を持って人に尽くす意欲と情熱のある人
- ・チーム医療を担うための協調性と柔軟性のある人
- ・医療や健康に関わる科学に強い興味を持つ人
- ・自ら問題を発見し解決する積極性のある人
- ・医療を通じた国際社会への貢献に関心のある人
- ・1年次の全寮制共同生活・学修に積極的に取り組める人

#### (2) 大学院

昭和医科大学大学院は、「至誠一貫」の精神をもとに、より高度な医療や研究に邁進し、人類の幸福に貢献する人材の育成をめざしています。入学選抜にあたり、次のような多様な学生・社会人を広く求めます。

(昭和医科大学大学院アドミッション・ポリシー)

- ・医療・健康・生命科学の専門知識を深く追究する意欲のある人
- ・常に探究心を持ち、先進的な医療を担う意欲のある人
- ・自らの活動領域を拓げ、医系総合科学を発展させる意欲のある人
- ・さまざまな分野の専門家と共に、先端的・独創的な研究を志す人
- ・社会での実践から得た知識と経験を体系化し還元する意欲のある人
- ・国際的視野を持ち、国内外へ向けて広く成果を発信する意欲のある人
- ・真摯に学び、高い倫理性と豊かな人間性を持つ指導者を志す人

## II 教育・研究の充実

### 1. 医学部・医学研究科

#### (1) 教育

##### ①診療参加型臨床実習の充実

5年生の診療参加型臨床実習に1年生のシャドーイングを導入し、屋根瓦式教育を体系化しました。評価基準を明確化・共有することで透明性と学修意欲を向上させました。選択型実習では国内外での実践機会を拡充し、多くの学生が主体的に挑戦しました。

##### ②基礎・臨床統合教育の改善

4年次に「臨床推論」科目を新設し、内科・外科・基礎医学が連携して症候から診断までの思考過程を教授しました。さらに病理・薬理で統合教材を開発し、オンデマンド学修環境を整備することで、基礎と臨床の統合理解を大きく促進しました。

### ③地域医療教育・地域卒学生への教育

地域医療実習を3年次・6年次に再編し、見学から診療参加へ段階的に深化させました。地域卒学生は出身地域での実習を通じ使命感を醸成しました。さらに消防同乗実習により prehospital care を体験し、地域医療理解を実践的に深めました。

### ④医学英語教育の充実

統合教育の中で英語論文の読解・要約・発表を実施し、専門的英語運用能力を強化しました。高学年では診療英語を重点的に学修し、外国人模擬患者による OSCE において全員合格を達成し、実践的能力の高さを示しました。

### ⑤プロフェッショナルリズム教育の充実

臨床実習における行動評価を厳格化し、段階的指導と明確な不合格基準を導入しました。これにより責任ある行動を促す教育文化を確立しました。多職種連携実習には過去最多の参加希望があり、多職種連携教育の高さと学生への浸透が示されました。

### ⑥新カリキュラムの構築

新カリキュラムとして初年次に基礎医学を修得する教育課程を設計し、体制整備を完了しました。アドバンスト・ワークショップでは全責任者参加の検討により、統合性と順序性を協議し、共用試験前倒しと臨床実習拡充を可能とする国際水準のモデルを構築しました。

## (2) 研究

### ①研究支援組織・制度の効果的活用

統括研究推進センターによる外部資金獲得支援および研究に関する相談・実務支援の整備状況について、医学研究科教授会等を通じて周知しました。また、医学部・医学研究科の教育職員が統括研究推進センターの兼担教育職員や臨床研究アドバイザーとして参画し、本学の医学研究の推進に貢献しました。

### ②大学院生の計画的な研究実施の支援

研究分野責任者と大学院課の連携のもと、在学年限が迫っている学生を優先的に抽出して個別の研究状況確認を実施するとともに、全大学院生を対象とした研究進捗管理の新たな方法について課題整理を進めました。また、3・4年次休職制度を整備し、令和8年度からの運用開始に向けた周知を図りました。

### ③大学院学生の研究活動における学内研究所との連携体制の整備と強化

兼担制度の活用により、研究所教育職員が学位論文指導に参画する事例が増加し、大学院生が選択できる研究テーマの多様化が進みました。また、医学研究科入試情報のホームページを活用し、研究所教育職員による指導体制を潜在的な入学希望者を含めより広く周知しました。

#### ④研究設備の整備

大学研究費、研究機器整備費および文部科学省等の助成金を有効に活用し、最新の研究機器の導入と研究設備の充実を図りました。また、稼働中の学内研究機器については、研究機器維持管理費等により保守修理と設備の維持管理を行い、研究活動を支えました。

#### ⑤研究成果の社会還元への推進

統括研究推進センター創造研究部門および研究支援課と連携し、特許出願等の知的財産の保護や産学連携に取り組みました。

### (3) 学生の受け入れ

#### ①地域枠入学者選抜の継続と新規設置の検討

令和8年度入学試験において長野県地域枠入学者選抜を新設し、募集人員2名で実施しました。既存枠も継続し、今後は教育・支援体制の充実と制度検証を進めます。

#### ②卒業生推薦入学者選抜の募集人数の増員の検討

令和8年度入学試験から卒業生推薦入学者の定員を10名に増員し、選抜を実施しました。これにより、多様な経験と本学への理解を有する志願者の確保につながり、安定した志願者数の維持と選抜の質の向上を図ることができました。

#### ③公募推薦入学者選抜の実施

令和8年度入学試験から新たに公募推薦入学者選抜を導入し、定員10名にて実施しました。本選抜では、多様な資質を有する志願者の確保を目的として、評価方法や選抜基準の整備を行い、公正かつ適切な選抜を実施しました。

#### ④MMI (Multiple Mini Interview) の検証と改善

入学試験実施後の検証体制を維持し、入学者選抜の公正性・公平性の確保に継続的に取り組みました。令和8年度入学試験においては、学内入学者選抜検証委員会による検証の結果、重大な問題点の指摘はなく、適正に実施されていることが確認されました。

### (4) 卒後教育

#### ①臨床研修体制の充実

令和6年度大学プロジェクトである「臨床研修医教育の問題点抽出と解決策検討プロジェクト」と協働し、問題点抽出とその改善策を立案しました。具体的には、主担当医制度、学会発表、1年次の救急当直開始(本院)、勉強会オンデマンド化などを進めました。

## ②指導医講習会の充実

オンサイトの指導医講習会を2回開催いたしました。研修医の指導に必要な新しい知識の伝達や技術の向上を図るため、外部講師を招き、プロフェッショナル教育、指導の実例などに関する講演を行いました。

## ③専門研修制度の充実

専攻医の募集プログラムの広報を継続し、新たな専門臨床研修医療機関の認定を行い、より充実した研修制度へ発展しました。また、専門臨床研修（専攻医）委員会にて、適切な指導やプログラムの確認を行いました。

## ④卒後医師スキルアップ講習会の開催

卒後医師、特に専攻医修了後の医師のスキルアップにつながる講習会の立案を行いました。また、キャリアに関するセミナーを開催いたしました。

## ⑤卒後教育にかかる学修環境の整備

シミュレータのレベル、個数、使用頻度などを公開することにより、利用者のニーズに応える貸し出し体制を継続しました。シミュレーション・センター運営委員会を定期開催し、より適切な利用、資材の整備のため体制づくりを継続いたしました。また、有効活用を促進するため、指導医講習会での教育研修棟の紹介を行いました。

## 2. 歯学部・歯学研究科

### (1) 教育

#### <歯学部>

#### ①修学支援体制の充実

2年生～4年生の修学支援は、前年度の成績だけでなく定期試験等の結果に基づいて支援教員の配置を行いました。同様に、6年生は卒業試験Ⅰの結果を参照し、支援対象学生の拡大をはかりました。また、年内に卒業が内定した成績下位学生に対して、国家試験直前まで修学支援を継続し、学力向上を図りました。

#### ②歯科病院における実習体系の整備

歯科病院での実習を段階的かつ体系的に見直すため、初年次は大学附属病院での歯科医師の業務見学、3年次は相互実習を取り入れた口腔内診察などの基本的手技習得、5年次はプロフェッショナルを意識した臨床参加型実習をカリキュラムに取り入れました。

#### ③授業内容の理解度と定着の向上

スクール形式の講義全般において、授業内容の復習と知識の定着、および授業の重要ポイントの把握を目的として、講義終了時の確認テスト実施を継続しました。

## <歯学研究科>

### ①大学院研究環境の充実

大学院生および教育職員に対し現状調査を実施しました。大学院生のアンケート結果から、経済的に困難な状況であることが最も多い悩みであることがわかりました。また、教育職員に対する調査結果は現在解析中ですが、大学院生の受け入れ人数において講座・部門間に差が認められました。

### ②大学院進学促進

従来大学院説明会の開催形式の改善に取り組みました。7月は全体説明会、9月は個別説明会とし、さらに、各研究分野の紹介動画を学内外に配信しました。また、学生後援会の参加者や歯学部6年次の学生に対して大学院の紹介をしました。

### ③研究活動の支援と質の向上

6月の昭和医科大学学士会例会に合わせて、3年次の中間研究報告会を開催しました。主査および副査（予定者）による研究進捗状況の評価を実施し、必要に応じて数ヶ月後に再評価をしました。また、大学院の授業において、海外の学会等における研究成果発表を促しました。

## (2) 研究

### ①研究活動の推進

臨床系講座・部門に所属する大学院生は、専門的な臨床スキルを習得するとともに、一部は基礎系講座・部門において研究を行いました。また、組織再生医療や疾患原因・治療方法等に関する質の高い論文等も上梓されました。

### ②外部資金の獲得

科研費申請率は、基礎系で100%を達成し、臨床系においても高い申請率となりました。科研費の採択率は全国平均レベルの20%以上を維持し、スタート支援、若手、基盤研究B,Cを獲得しました。また、財団や学会等の外部資金も獲得しました。

### ③研究設備の充実

新規研究機器候補を研究活動委員会が歯学研究科内で募集し、公共性の拡大と高度な解析に役立つ機器を選定しました。大学および文部科学省の支援により、基礎および臨床研究に必要な新規の解析・測定機器を複数導入することができました。

### ④研究成果の活用

国内の大学や民間企業との共同研究・開発が行われました。その研究成果の一部は知的財産として本学の職務発明委員会に特許出願申請が行われました。また、他大学との共同研究による論文も複数上梓されました。

### (3) 学生の受け入れ

#### ①志願者数増加の推進

4月と7月の入試説明会（オープンキャンパス）は、上條記念館での学部紹介・入試説明会と歯科病院見学会の2部構成で実施しました。また、入試常任委員による土浦日大中等教育学校への出張授業、SNSによる歯学部紹介動画等の配信、准教授・教授による指定校・協定校訪問を行うなど、高校生や受験生に積極的に訴求しました。

#### ②選抜方法の検討

総合型選抜入試、推薦入試（指定校、協定校、卒業生、一般公募）、選抜入試（Ⅰ・Ⅱ期）、共通テストの入学者の成績推移を解析し、その結果に基づいて各入試枠の募集定員、評価方法を見直しました。

#### ③推薦入試における指定校枠の改善

高校別の受験状況（志願者数・合格者数・入学者数）を解析し、歯学部に適した指定校を選定、更新しました。また、各高校の入試偏差値等に基づき、指定校毎に推薦条件（評定平均）を個別に設定しました。

#### ④入学前準備教育の充実

総合型および推薦入試の入学者に対して予備校の復習テストを実施し、成績不良科目についてはWeb授業の受講を義務付けました。受講状況に問題のある入学予定者に対して、本人および在籍高校に受講を促すための連絡を行いました。

### (4) 卒後教育

#### ①新歯科医師臨床研修プログラムの整備

臨床研修における目標経験値を、直近数年の実績に基づいて見直しました。また、昭和医科大学関連病院におけるチーム医療や、多職種連携のもとで実施される口腔ケアを研修医全員が体験しました。

#### ②研修評価の充実

研修の量的評価を経験症例数に基づいて見直し、整備しました。一方、質的評価としては旧態依然とした指導医の主観的なレーティングスケールが継続的な課題であり、標準化されたルーブリックへの移行を目指して準備しています。

#### ③臨床研修指導体制の充実

令和8年2月14日～15日に臨床研修指導歯科医講習会を開催し、学内22名、学外15名の臨床研修指導歯科医を養成しました。この結果、歯科病院内の指導歯科医数は64名から86名へと増加しました。

#### ④卒後の専門医育成システムの構築

臨床研修修了後の専門医教育カリキュラムを各診療科で再整備するため、情報交換を行いました。今後、研修期間中に診察、検査、診断、治療などで関連する診療科での短期研修をカリキュラム内に取り入れる予定です。

### 3. 薬学部・薬学研究科

#### (1) 教育

##### ①新カリキュラムおよび改正履修要項の2年次への適用

令和6年度入学生から開始した新カリキュラムを2年次において実施しました。1年次に移動した専門科目での学修を基盤とし、段階的な学修となるよう2年次の専門科目を体系的に配置しました。また、再試験や進級試験の受験資格を変更した改正履修要項を2年次に適用し、進級判定を実施しました。新カリキュラムと履修要項改正の効果検証に向けた体制を整備しました。

##### ②ハイブリッド型授業システムの検証と改善

一部の講義科目において、オンデマンド配信授業と対面型授業を組み合わせたハイブリッド型授業システムを運用しました。オンデマンド配信授業と対面型授業を組み合わせた学修環境は、学修リズムの形成と授業内容の理解を支援することに有用と考えられたため、令和8年度以降の5・6年次科目への適用に向けた検討を行いました。

##### ③進級試験および卒業試験における問題難易度の適正化

新カリキュラムに基づく進級試験出題内容および問題難易度について検討を行い、その結果を踏まえて2年次進級試験を実施しました。5年次までの進級試験問題作成にあたっては、進級基準に照らした適切な難易度となるよう、科目担当者に留意を促しました。また、6年次卒業試験ならびに再評価試験については、問題難易度の見直しを行ったうえで実施しました。

##### ④「臨床研究・臨床実習中心カリキュラム」の検証と改善

令和6年度より開始した「薬学研究実践プログラム」（5～6年次）について、初年度の運用を通じて確認された授業運営上の留意点を整理し、改善したうえで実施しました。多くの学生が臨床研究実践コースを積極的に選択し履修しました。また、基盤研究実践コース、症例研究実践コースを含め、多くの学生が学会等において研究発表を実施したことが確認されました。

##### ⑤大学院生の学修機会の拡充

最先端の知見が学修できるよう、大学院の講義科目を一部変更しました。また、秋期入学者が入学直後から履修できるよう秋期開講科目も設定しました。加えて、4研究科共通科目への履修を必須とし、昭和医科大学学生会後援セミナーへの参加も推奨しました。

## (2) 研究

### ①大学院薬学研究科の特徴を活かした研究活動の推進

大学院生の一部がSURACの統計アドバイザーのサポートのもと研究成果をまとめることができました。加えて、「大学院生カフェ」に多くの大学院生、教育職員が参加し、大学院生同士の連携や異なった研究領域に関する知見を広めることができました。

### ②研究活動へのサポート体制の強化

総合型選抜入試については志願者の利便性を高めるため、これまで2日に分けて行っていた試験を1日で実施しました。また、指定校推薦入試および特別協定校入試では、これまでの実績に基づき基礎学力試験を実施しないこととしました。その結果、総合型、指定校推薦および特別協定校推薦の志願者が増加しました。

### ③外部研究資金獲得の推進

公的研究費や財団等による研究助成についての応募情報を研究科内で共有し、多くの教育職員に加え大学院生が公的研究費や財団等による研究助成への応募を行いました。応募にあたって、申請書のブラッシュアップを行い、いくつかの外部資金を獲得することができました。

### ④大学院生の研究活動サポート体制の強化

臨床研修を行う大学院生を対象に、入学時の研究スケジュール立案や、進級時の研究進捗アンケートの実施に加え、3年次には研究内容をまとめたプレゼンテーションを行い、大学院運営委員等による進捗確認とフィードバックを行いました。確認の結果、著しく研究の遅れている大学院生はおりませんでした。

### ⑤大学院生が研究に集中できる環境の整備

臨床研修修了後の大学院生が、助教(病院直属)として採用後休職して研究に専念する制度が進められました。研究時間を十分に確保することが可能となり、研究指導教員との連携も向上した結果、本年度、この制度による最初の大学院生が学位を取得しました。修了生は4月より復職して本学附属病院での勤務を再開します。

## (3) 学生の受け入れ

### ①入試区分ごとの募集人数の妥当性の検証と改善

指定校推薦入試での志願者枠を1校あたり2名に増やしたことから、当該の募集人数を5名増やして、25名としました。増加分は一般選抜Ⅱ期での募集人数を5名減として15名にすることで調整しました。

### ②年内入試の選抜方法の検証と改善

総合型選抜入試については昨年引き続き、1日での実施としました。指定校推薦入試および特別協定校推薦入試についても、昨年同様、学力試験を免除し、小論文並びに面接試験での評価としました。さらに新たな指定校の選定を行いました。

### ③入学前準備教育の検証と改善

教員による入学前体験講座の内容を一部新しくしました。入学前準備教育の受講状況、試験の提出状況を毎週詳細に確認し、不足している学生には入試常任委員から連絡をして、受講を促しました。

### ④特別協定校および包括連携協定校との連携強化

令和8年度も引き続き、昭和女子大学附属昭和高等学校での学外授業ならびに大学案内を実施しました。また、包括連携協定校とも学外事業を実施し、さらに連携の強化を図りました。

### ⑤学部から大学院に繋がる本学教育職員育成プランの奨励

シンシアー奨学金採用者は特別奨学生への申し込みが必須となったことをはじめ、シンシアー奨学金制度、MDプログラムならびに特別奨学金制度の概要説明をオリエンテーション等において繰り返し実施しました。

## (4) 卒後教育

### ①生涯研修制度の充実と検証

前年に引き続き、大学に来なくてもオンラインで参加できるオンライン参加型プログラムを充実させ、首都圏以外の受講者の便宜をはかりました。公益社団法人薬剤師認定制度認証機構により生涯研修認定制度の更新が認められたことをうけ、制度の再評価を行いました。

### ②研修内容の充実

これまでに引き続き、昭和医科大学薬学部同窓会、品川区薬剤師会、大田区薬剤師会との連携強化に取り組みました。

## 4. 保健医療学部・保健医療学研究科

### (1) 教育

#### ①リハビリテーション学科新専攻設置準備およびカリキュラムの構築

令和9年度開設予定であるリハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻および同視覚機能療法学専攻については、カリキュラム構築、教員候補者の決定が概ね完了しました。指定申請を令和8年5月に、学則変更の届出を令和8年8月から12月の間に行います。

#### ②医療技術学科設置準備およびカリキュラムの構築

令和9年度開設予定である医療技術学科診療放射線技術学専攻、同臨床工学専攻、同歯科衛生学専攻については、カリキュラム構築および教員候補者を決定し、令和8年3月6日に文部科学省宛に設置認可申請書類一式を提出しました。

③専門コースに診療看護師養成のコースの増設準備

診療看護師養成コースのカリキュラムについて情報収集し、検討の準備を行いました。

④新しい研究組織への移行を見据えての科目の見直し

長期間に開講されていない科目を確認しました。今後のセンター化に合わせた新規の科目を開講しました。

(2) 研究

①研究倫理教育の強化

医学部教員を招聘し、令和7年5月には本学部4年生を対象に、同年10月には本学部3年生を対象に、それぞれオンデマンド形式による研究倫理教育を実施しました。また、教員に対しては、教授総会および研究科教授会を通じて、本学研究活動規範マネジメント委員会が主催する、講師以上の職位にある教育職員を対象とした研究倫理講習会の受講について周知を行いました。

②国際交流活動の推進

国際交流センターとの連携により、海外における保健医療系大学との交流をさらに推進します。相互交流を継続しているタイ・ワライラック大学に加えて、学部間協定締結が可能となる保健医療系大学との連携を深めます。

③研究費獲得の支援

統括研究推進センターの科研費申請書ブラッシュアップへの提出を推進し、記載に関する事前の相談に応じました。

④研究倫理教育

保健医療学特論で博士前期課程の大学院生が研究倫理について学ぶ単元を加えました。

(3) 学生の受け入れ

①総合型選抜入試の検証

令和7年度総合型選抜入試で導入したグループディスカッションについて、令和8年度入試においては、テーマ設定やディスカッションおよび教員による成績評定の進め方をさらに改善して実施しました。

②理科出題範囲の検討

令和8年度一般選抜Ⅰ期入試および一般選抜Ⅱ期入試より、理科の出題範囲を従来の「物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物、から1教科選択」から、「物理基礎、化学基礎、生物基礎、から1教科選択」としました。

### ③広報活動の検証と実施

特に新学科・新専攻の設置に関しては、X（旧 Twitter）やインスタグラム等の SNS を活用し、動画による広報活動を展開しました。また、指定校については、令和 8 年度入試において依頼校数を増やすとともに、積極的な訪問を通じて新学科・新専攻に関する広報活動を実施しました。さらに、保健医療学部同窓会にも協力を依頼し、新学科・新専攻設置に関する周知およびアピールを行いました。

### ④附属病院の職員の受け入れ

博士後期課程では 6 人、前期課程は 28 人の職員が在籍しています。在籍者の 50% が職員であり臨床教員の育成が予定通りに進んでいます。外部からの受入れも行い、内外のバランスも良好です。

## （4）卒後教育

### ①統括看護部および統括リハビリテーション技術部との連携

統括看護部および統括リハビリテーション技術部との年 2 回程度のオンラインミーティングを継続しました。また、各学科単位で臨床教員との定期的な情報交換を実施すると共に、令和 8 年 12 月には新規採用の臨床教員に対してビギナーズワークショップを 2 日間にわたって実施しました。

### ②臨床実習指導者教育の推進

令和 7 年度においても、神奈川県保健師助産師看護師実習指導者講習会および昭和医科大学保健師助産師看護師実習指導者講習会を合同で開催しました。また、統括リハビリテーション技術部と連携し、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の該当者に対して、臨床実習指導者講習会の受講を推進しました。

### ③専門コースすべてにおいて、認定試験受験のサポート CNS 分野と遺伝カウンセリング分野での認定試験受験のサポートに加えて、医学物理教育分野でサポートを行い修了生が認定試験に合格しました。

## 5. 富士吉田教育部

### （1）教育

#### ①薬学部新コアカリキュラム、医学部・新カリキュラムを踏まえた初年次教育の構築

令和 8 年度開始の新たなカリキュラムの運営に必要な教育課程、カリキュラム編成のために全学部の関連科目担当教育職員、教育委員を中心にカリキュラム検討部会初年次WGを組織し、本学のディプロマポリシー、コンピテンシーを達成するために必要な初年次教育の位置づけを明確にしたうえで、カリキュラム、時間割、運営計画を複数回の検討会議で決定し、実施可能な内容として実装しました。

## ②本学が目指す医療人育成の中での教養教育の推進

全学部必修の学部連携科目である「アカデミックスキルズ」、「コミュニケーション」、「ヒューマニティ」、「地域医療入門」、「チーム医療の基盤」それぞれについて、学生の多様化に合わせた内容の更新・最適化を行いました。また、選択教養科目群については、懇親会等における情報共有を通じて医療人育成という目的意識の共有を強化し、学部連携必修科目との有機的なつながりを重視した見直しを継続して進めています。

## ③教育組織の再構築

新カリキュラム開始に向けて、形態機能学班に解剖学担当の教育職員を新たに雇用しました。さらにアナトマージテーブルによる形態機能学の学修のための研修を、カリキュラムに関連する教育職員によって行われました。また、人文社会学班に史学担当の教育職員を雇用し、リベラルアーツ教育の充実を図りました。

## ④令和8年度運用開始新カリキュラムのための学修環境の整備

新実習棟建設に連動して、旧来の4号館各実習室（生物学実習室、化学実習室、物理実習室）を、多目的な実習、演習を実施するための設備として運用するために備品の整理を進めました。また、5号館2階の実習室についても、保健医療学部と連携して有効活用方法について運用計画を検討しました。

## ⑤進級制度の見直しおよび要支援学生への対応

要支援学生がたずまずきやすい科目として、英語および生物学については、基本的な内容を講義するとともに学修方法を含めて質問を受け付ける特別授業を継続して実施しました。また、医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部それぞれから出席する教育委員を2名に増員し、各学部専門科目の履修状況や理解度をきちんと把握する体制を強化できるように教育委員会規則を改定しました。

## (2) 研究

### ①研究活性化の推進

令和9年度より学科・専攻の設置に呼応して、教育・研究班の再編成を目指し、学部専門科目、特に解剖生理・生化学等を中心とした教育・研究班組織（形態機能学領域）の編成、人事配当を行ないました。また、既存の7つの研究班組織、特に2つの領域に分かれていたサイエンス教育・研究班編成を1つに再編成し、形態機能学領域と基礎サイエンス領域の明確な教育・研究上の位置づけ、差別化を行ないました。また、各班の呼称の変更も行いました。

### (3) その他

#### ①地域貢献活動の推進

富士北麓地域の富士吉田キャンパス近隣でボランティア活動、地域イベントへのサポート、高校生への研究指導を実施しました。ボランティア活動には、子供や地域住民が交流する「みんなの食堂」への支援、高齢者施設での音楽活動への参加を含みます。サポートした地域イベントには地元自治体による多文化共生フェスタなどがあります。

#### ②学生指導・指導担任制度の充実

学生の多様化に合わせた全寮制教育のために指導担任制度の更新・最適化の準備を進めました。学生に対して教員として直接かかわる指導担任の教育職員とあわせて寮で生活を見守る寮監や富士吉田校舎の事務職員もふくめた検討会を複数回実施し、目的意識と今後の見通しを共有しました。さらに大学職員間でのより適切な役割分担とチームワークを目指して情報共有の方法を整えています。

#### ③昭和医科大学富士山麓自然・生物研究所研究員との連携

昭和医科大学富士山麓自然・生物研究所研究員も参加したワーキンググループで新指導担任制の導入に関する検討会を複数回実施し、また AI の使用に関するワークショップも行いました。学生の現実に即した教育の実践とそのため具体的な方策について理解を深めて共有しました。

## 6. 看護専門学校

### (1) 教育

#### ①教育体制の強化

大学附属化に伴い、高機能シミュレーター等を活用した実践的演習を導入し、看護実践能力向上のための教育基盤を構築しました。一方で、制限のない再試験制度が学生の意欲を阻害する課題も浮き彫りとなりました。今後は試験体制の厳格化と資質教育を並行し、知識・技能・態度の多角的な評価による質の高い進級判定を推進します。

#### ②授業の充実

本年度はチーム医療の担い手育成を目的に、大学の施設や高機能シミュレーターを活用した実践演習を拡充し、急性期や小児看護領域での判断力と実践能力を強化しました。今後は対人能力や対応力をさらに高めるため、模擬患者（SP）を活用した演習の導入に向け、体制整備の検討を進めます。

#### ③実習担当教員制度の導入

実習担当教員制度を拡充し、協力体制を強化いたしました。研修や情報共有を通じて指導の質の向上と円滑な実習運営に努め、学生支援体制の充実を図っております。今年度は学生全員が実習目標を達成しましたが技術の習得率は低下が見られました。今後は学生の「看護実践能力の向上」へ支援体制の強化に取り組んでまいります。

## (2) 学生の受け入れ

### ①志願者の確保

総合型選抜入試の充実および指定校数の拡大により、推薦入学者数を確保することができました。学校説明会やHP掲載、高校へのチラシ送付、校内外掲示を通じて広報機会の拡充を図りました。オープンキャンパスでは学校案内ツアーを実施し、本学の魅力理解の促進に努めました。次年度は志願者確保に向け広報活動を一層強化いたします。

## (3) その他

### ①教員の育成

学会・研修会に参加し伝達講習を実施いたしました。都内私立看護専門学校間で授業参観や研修「学生の実習における学び」を行い、他校教員と意見交換し育成体制の充実に取り組みました。今年度は新任教員8名を迎え、相互成長を促す体制を整備いたしました。今後は段階的育成やOJTの充実により次世代育成を強化してまいります。

## 7. 助産学専攻科

### (1) 教育

#### ①教育の充実

地域母子保健の視点から継続教育を充実させ、妊娠期から関わった母子を対象に離乳食クラスを実施しました。臨床教員制度やシミュレーション教育、ポートフォリオを活用し、助産実践能力と専門職としての意識を育成しました。全国助産師国家試験の合格率は100%を維持しました。

### (2) 研究

#### ①研究活動の活性化

附属4病院の助産師・産科医師との連携による共同研究体制を整備し、学会発表を継続的に実施しました。神奈川母性衛生学会学術集会の企画・運営にも参画し、研究活動の活性化と修了生・大学院生への研究支援および学術発表の推進を図りました。

### (3) 学生の受け入れ

#### ①定員数の検討

オープンキャンパスでは定員15名に対し約100名の申込みがあり、入学試験では過去最多の98名が受験し6.5倍となりました。今後は志願動向や分娩件数等を踏まえ定員を検討するとともに、公開授業の実施や1年制カリキュラムの見直し、2年制課程の検討を進めます。

#### (4) 卒後教育

##### ①キャリア形成教育の充実

キャリア支援室と連携し、助産師の専門性を踏まえたキャリア形成教育を充実させました。授業内でのキャリア教育に加え、同窓会や附属病院と連携した研修会を実施し、学生・修了生・臨床スタッフが共に学ぶ体制を強化しました。また、国会議事堂見学等を通じ、将来のキャリアビジョンを広げる教育を行いました。

#### (5) その他

##### ①昭和医科大学認定助産師等の認定取得に係るサポート体制の強化

附属4病院の助産師と産科医師とともに、助産師の基礎教育と卒後教育を一貫して行う研修会を実施し、学内からも実践力の強化に貢献し、法人全体の助産師の実践能力向上に努めました。

##### ②日本助産評価機構アドバンス助産師の申請および更新

2カ月おきに行われている統括看護部助産師会議にて、アドバンス助産師の申請者および更新者を確認し、今後臨床においてアドバンス助産師が専門性を発揮できる役割について検討を行いました。また、学生時代から計画的に臨床でのキャリアを高めたいけるよう授業での動機づけを行いました。

##### ③教員の教育力を高める学習会の実施

3月の実習指導者会議での学生の動向を共有することと、学習会を行いました。実習生の学生の施行の整理を助ける教育方法と、精神的サポートを充実させるための件から、来年度に活かすための教員の関りについて学びました。

## 8. 研究所・共同施設

### (1) 昭和医科大学先端がん治療研究所

#### ①基盤研究の実施

文科省科学研究費助成事業（基盤C）4件、若手研究1件を実施しました。研究所内で初見したシーズの知財申請、企業導出を行いました。Boehringer Ingelheim社との共同研究では、新規化合物の提供を得て前臨床モデルを用いた薬効試験を継続しました。ヒト生体試料（血清、尿、髄液等）のラマン分光法を応用した分析技術の確立に取り組みました。液性試料を保持しうる複数のラマン分光用基板用素材を評価しました。ラマンスペクトルの取得・解析について株式会社シスメックスと共同研究を行いました。また、株式会社島津製作所とラマン分光と赤外分光法の複合解析による性能上乘せ効果に関する共同研究を行った。アイルランド国立大学コーク校と、人工知能を活用したラマンスペクトル解析に関する共同研究を行いました。製薬企業や医療機器メーカーと開発品のポートフォリオ、パイプラインについて情報交換を行い、委託・受託研究や共同研究を計画しました。

## ②臨床研究の推進

研究機関や企業との委託・受託契約のもと、医師主導の特定臨床研究、橋渡し研究を実施しました。また、医師主導治験を主導して実施いたしました。結果を学会で発表し、論文化いたしました。新規の企業主導治験を受託し、また、継続中の治験についても昭和医科大学病院臨床研究支援センターの協力のもと運用しました。

ヒト生体試料（血清、尿、髄液等）のラマン分光法を応用した分析技術の確立のために、江東豊洲病院消化器センター（ヒト血清）、昭和医科大学病院脳神経外科（髄液）、埼玉県立がんセンター（血清）と共同研究契約を締結し生体試料の提供を受けました。研究所の活動の成果を学内・学外の学会やホームページ、SNSを通じて広く周知し、本学の認知向上を推進しました。

## ③教育活動

大学院医学研究科の共通項目「分子生命科学的解析法」を担当しました。また、大学院博士課程の学位研究支援を行いました。学外講師を招聘し橋渡し研究セミナーを実施しました。文部科学省がん専門医療人材養成事業（次世代のがんプロフェッショナル養成プラン）では、eラーニング作成・公開、4大学連携チーム医療ワークショップを開催しました。学校におけるがん教育としては、第二延山小学校のがん教育授業の外部講師を派遣しました。また、文教大学付属高校生に臨床腫瘍学や基礎腫瘍学に関する講義を行いました。

### （2）昭和医科大学臨床薬理研究所

#### ①企業主導臨床研究等の実施

第Ⅰ・Ⅱ相試験：1件、第Ⅱ・Ⅲ相試験1件、第Ⅲ相試験6件、BE試験1件の企業主導治験9件、医師主導治験3件の合計12件を実施しました。

#### ②臨床研究の実施

特定臨床研究：8件（薬学部臨床研究開発学部門3件、医学部臨床薬理学部門1件、薬学部臨床研究開発学部門・医学部臨床薬理学部門2件、免疫腫瘍学部門2件）、臨床研究：18件（医学部臨床薬理学部門2件、薬学部臨床研究開発学部門1件、産婦人科1件、腫瘍内科8件、藤が丘病院小児科1件、他大学5件等）、合計26件を実施しました。

#### ③渉外活動

厚生労働省・内閣府等の見学の受入（27名）、学会等での紹介、製薬企業と面談等を行いました。

製薬会社との面談（WEB会議形式含む）では、6件のうち4件とは具体的な相談を行い、すでに1件が実施されました。他についても治験実施に向けて調整を行っています。また、研究所の活動をより幅広く周知するため、ホームページを刷新し部門紹介や研究業績を追加するなど全体の見直しを行いました。

#### ④教育

初年次体験実習にて富士吉田教育部の学生(36名)、薬学部の学生(191名:P4、P5、P6)および留学生(4名)に対し施設見学、施設紹介等を通じ教育を行いました。また、昭和医科大学8病院臨床研究(治験)支援合同会議に参加し、施設間・多職種間での治験・臨床研究に関する情報を共有することで、職員の意識向上および人材育成に努めました。さらに、当研究所の兼任教員が臨床研究アドバイザーを担当しているため、統括研究推進センター(SURAC)と連携し、臨床研究の支援や臨床研究の質の改善に努めました。

### (3) 昭和医科大学発達障害医療研究所

#### ①発達障害脳科学研究の推進

神経発達症当事者および定型発達者の神経画像・認知機能・臨床症状の測定を実施し、合計80名以上のデータ蓄積を行いました。加えて、多施設共同研究を通じて、診断に資する神経特徴を抽出する機械学習手法の開発やASD当事者の黒質における鉄分沈着の亢進といった成果を国際学術雑誌にて発表しました。

#### ②共同利用共同研究および拠点間連携の推進

研究課題の公募を行い、9件を採択して共同研究を推進しました。これまでの共同研究の推進や拠点間連携の強化など、第2期(令和2～7年度)における拠点活動が評価され、文部科学省より共同利用・共同研究拠点としての認定が次年度から第3期に更新されました。

#### ③成人期発達障害の支援ネットワークの拡充

令和7年10月11～12日に東京都・一橋講堂で成人発達障害支援学会を開催し、研究所所長が大会長を務めました。歴代最多の参加者を得て、支援に関する研究・実践の共有が行われました。また大学生支援プログラムを書籍化し、新聞でもダイケアプログラムが紹介されるなど、全国的な普及に向けた取り組みを推進しました。

#### ④発達障害のウェルビーイング研究の開始

当該研究プロジェクトにおいて、東京大学先端科学技術研究センターの実施するニーズ調査に全面的に協力し、当事者視点や支援者視点から見た困りごとやニーズを明らかにすることに貢献しました。また、同研究センターの開発した支援ツールの予備的実験を当院ダイケアで実施して、社会実装に関する議論を深めました。

### (4) 昭和医科大学スポーツ運動科学研究所

#### ①アスリートにおけるスポーツ外傷・障害の予防とパフォーマンス向上への取組

日本体育大学ラグビー部でのフィジカルチェックを、昨年までは1、2年生のみでしたが、今年度から3、4年生を含めた全学年で実施しました。学年が上がるにつれて膝関節筋力や体幹安定性などの、運動パフォーマンスに直結するパラメーターの経時的変化を検討しました。

## ②包括連携協定を締結している日本体育大学・洗足学園音楽大学との研究の実施

日本体育大学ラグビー部とアメリカンフットボール部のメディカルチェックを実施し、ラグビーではポジション別の外傷部位の違いや、身体機能の違いを検証しました。洗足学園音楽大学のクラシックバレエではメディカルチェックデータベースから脊柱の運動と骨盤の運動の関係を調査し、腰痛との関連を検討しました。

## ③交流と共同研究の推進

日本体育大学ラグビー部では肩関節脱臼と肩甲骨運動との関連を調査しました。日本体育大学アメリカンフットボール部ではクォーターバックの投球動作解析を行い、体幹回旋角度と肩関節角度の関係から、投球による肩関節痛との関連を検討しました。洗足学園音楽大学バレエコースではメディカルデータから疼痛側の足関節可動域とアキレス腱の厚さとの関連を調査しました。

## ④学術研究の推進

第17回学術研究発表会は7月12日（土）に開催し、日本体育大学ラグビー部の渡邊清トレーナーにご講演いただきました。また、第18回学術研究発表会は令和8年1月24日（土）に開催しました。特別講演では、昭和医科大学ブルーウィンズの獅子内美帆選手と片山立規監督にご講演いただきました。

## (5) 昭和医科大学富士山麓自然・生物研究所

### ①富士山麓の生物に関する研究

富士山北麓周辺にて、土壌や水系の微小節足動物、両生爬虫類、鳥類・哺乳類、植物・菌類についての生物相調査を行いました。これらの標本を作成・収蔵を開始し、両生爬虫類・微小節足動物などでは合計500サンプルを超えるDNAバーコーディング配列の決定を行いました。これらの成果は、国内30件・海外3件の学会発表などにより広く周知に努めました。

### ②富士山の火山活動史に関する研究

令和7年度は富士山に加えて十和田火山・神津島天上山に調査対象範囲を拡大し、火山岩の古地磁気データを収集しました。また、山梨県埋蔵文化財センター・都留市・富士吉田市・富士河口湖町・帝京大学文化財研究所の考古学・文化財調査に寄与することにより、地域との連携を強化しました。

### ③自然教育園を利用した研究・教育

定点カメラによる観測や実際の観察などから、自然教育園内に設置されたビオトープに出現した種も含めて哺乳類16種、鳥類59種、爬虫類3種、両生類3種を確認しました。8人体制の研究所では多くの担当学生への対応をし、前期に開講した「富士山の自然と文化」では自然教育園内の動植物を利用した実習を行いました。

#### ④普及・啓発活動の推進

令和7年度は山梨・埼玉・神奈川・東京の自治体や、学内の公開講座などにおいて、計7件の講演・公開講座を実施しました。商業施設主催による地域の生き物に親しんでもらうイベントでは、企画段階から協力をしました。また、周辺自治体が行う自然環境調査に同行する形での調査も加え、富士山麓の生物相・地史の一般普及に貢献し、本学の認知向上に努めました。

#### ⑤富士山麓自然・生物研究所の研究環境整備

令和7年度は既存実験室の機能拡充のため研究機器・設備整備を行いました。新たに標本庫の整備も進め、富士北麓地域の動植物標本の収集を開始しました。また令和6年度末から設置が進められていた植物栽培用温室の試験運用を開始し、夏季における植物育成環境の維持に必要な設備の導入計画を立てました。

### (6) 昭和医科大学臨床ゲノム研究所

#### ①研究に資する環境の整備

がんゲノム医療で提出されたがん遺伝子パネル検査の検査結果方向書(PDF)から、遺伝子変異情報と推奨治療の有無やその内容について、データベース管理しやすい構造化データに変換するアルゴリズムをいくつか後ろ向きに検証しました。一つの抽出方法を採用し、データベース構築や、作成済みのデータとの統合へと進めます。

#### ②がんゲノム医療に対する教育活動

学内では学生向けの講義を実施し、加えて外部講師を招聘して、学生や職員に最新のガンゲノム医療関連の情報を提供する機会を設けるなど、教育活動を行いました。また、関連学会において遺伝性乳癌卵巣癌症候群の未発症者の現状と課題などについて教育講演などを行いました。

#### ③発表会の開催

令和7年11月5日に外部講師を招聘し、がん遺伝子パネル検査を臨床に今後どのように発展的に活用、拡充して行けるのかについて、大学院生や職員向けに講演頂き理解を深めました。同月21日にも外部講師を招聘し、東北メディカル・メガバンク機構の概要を通じてゲノムデータの管理や活用、課題について知識を深めました。

### (7) 昭和医科大学脳機能解析・デジタル医学研究所

#### ①ガンマ波規則性解析を用いた脳機能障害判定システムの構築

AI活用てんかん診断の研究、術中脳機能マッピング法の研究については、論文を発表しました。小児てんかん患者における研究は現在進行中で、共同研究者として科研費を獲得しました。認知症患者における研究は解析が終了し論文作成中です。発達障害当事者における研究、香りにおける機能性研究、およびBrain machine interfaceの研究は継続中です。

②次世代シーケンス解析を用いたてんかん関連脳腫瘍コンパクトパネルの開発

てんかん関連脳腫瘍コンパクトパネルの一次開発が終了し、(株) Cancer Precision Medicine との共同研究も今年度で終了いたします。今後はAIを導入して、より精密な診断法へ発展させたいと考えます。

③AIを活用した立体視デジタル医学教育・医療システムの構築

デモ機の開発が終了し、国内外の学会やイベントで本技術のデモンストレーションを行いました。複数の医療施設から技術導入についての相談があり、次年度はいよいよ医学教育への実装の段階に入っていくと考えます。

④中央アジアとの国際医学交流

キルギス政府および医療関係者、カザフスタン大統領府メディカルセンター関係者が本学を来訪されました。また、カザフスタン ナザルバエフ国立大学で招待講演を行い、中央アジア No. 1 の脳神経外科センターと共同研究契約を交わしました。

(8) 昭和医科大学ストレスマネジメント研究所

①ストレスマネジメント研究所の整備計画

ホームページなどを通じて、ストレスマネジメントの情報発信をしています。研究所 Facebook でも最新活動を更新しています。今年度から新たに KDDI 財団からデジタルイノベーションの社会実装助成研究助成を受けているので、プラットフォーム作りをさらに推進しました。

②行動医学教育の推進

富士吉田キャンパスの全学部1年生を対象に、「医療心理学」と「人の行動と心理」を担当し、医学部医学科では1～5年生を通じて「行動医学」を担当しています。昨年度から行動医学教育の開発に対して、三菱みらい育成財団から助成を受けています。薬学部と保健医療学部の専門課程や、保健医療学研究科の修士課程でも、必修科目を担当しました。

③ストレスマネジメント研究

神奈川県のコーディネートのもとで、「女性の社会的活躍をサポートするための環境づくりに向けた実証事業」を継続しました。企業等の女性従業員を対象に、睡眠やストレスに着目してその状態を可視化した上で、ストレスマネジメント等のオンライン介入プログラムの効果を学会発表し、論文化しました。

④ハーバード大学との国際交流

ハーバード大学医学部心身医学研究所と緊密な連絡を取り、本研究所のストレスマネジメント・プログラムとの協力体制を築いています。今年度も研究所スタッフを現地に派遣し、本研究所の進捗状況を報告してきました。

## ⑤ ストレスマネジメントの実践

日本心身医学会、日本行動医学会、日本心理医療諸学会連合大会などで、ストレスマネジメントの実践に関する学会発表をしました。医師会、教育機関、企業など各種機関でのストレスマネジメント指導も実践しています。

## (9) 昭和医科大学メディカルデザイン研究所

### ① Mixed Reality (MR) 技術とシミュレーション教育を融合した教育プログラムのデザイン研究

「ilis (アイリス)」と命名した本研究は、令和7年度グッドデザイン賞を受賞しました。医療者主導のデザインの受賞は初めてだと思います。本年度中の社会実装を行うために、ilisの開発・販売企業とプログラムを詰め、販売価格とロイヤリティーの設定を行い、販売利益を受託研究費として得る契約も締結しました。

### ② 医療従事者のための機能性とファッション性に優れたボディプロダクトのデザイン研究

昭和医科大学スポーツ運動科学研究所 (RISES) との共同研究として、機能性と審美性を兼ね備えたメディカルウェアのデザインを始めました。第一弾として、IMDでデザインしたRISESのロゴマークを配したスクラブを試用してもらっています。医療服製造企業との契約も済ませ、オリジナルデザインに着手しています。

### ③ 子どもを怖がらせないパルスオキシメーターの外装のデザイン研究

いくつかの問題解決のためのアイデアを考えた上で、本研究におけるデザインの適切な方向性を見極めるべく、小児科等での現状把握のための調査を行っています。また、小児向けとして販売されている動物などのキャラクターをモチーフとしたパルスオキシメーターの既製品もあるため、それらの調査も含め情報を収集しています。

### ④ 産婦人科の記念撮影のためのフォトスポットおよびメッセージカードのデザイン研究

横浜市北部病院産婦人科の助産師、看護師が描いた花の絵を集めデザインしたお祝いカードとフォトスポットが完成しました。令和7年1月27日～令和8年1月26日の期間、お祝いカードを贈られた産婦さんのご意見を伺ったところ、320名の産婦さんが感想を述べ、262人(82%)が喜びの気持ちを表していました。

### ⑤ 昭和医科大学ブランディング向上のためのUniversity Identity (UI) グッズのデザイン研究

昭和医科大学の4学部を象徴するイラストをあしらったグリーティングカードや、オープンキャンパスに来場した受験生などに配布する消しゴムとメッセージカードをデザインしました。また、デザイナーを擁した世界初の医科大学をPRするべく、IMDオリジナルの不織布バッグや封筒、クリアファイルなどもデザインしました。

## (10) 臨床疫学研究所

### ① 臨床疫学研究の推進

臨床医学の諸問題の解決に貢献する多職種が関わる臨床疫学研究を、幅広い研究デザイン [疾患レジストリ研究、システムティック・レビュー (SR)、医療経済学・医療政策学研究、質的研究・混合研究、症例報告・症例集積研究 (Cases Reports)、等] で行い、令和7年度は英文論文34編を出版しました。

## ②臨床疫学研究の指導的人材の育成

情報通信技術(ICT)も活用した登録制の多職種連携人材育成プログラム(SmUNLiSE)を実施しました。令和7年度はSR、英文CR、英文レター論文執筆のためのワークショップを計4日間開催し、継続的な執筆支援プログラムから令和7年度は英文論文11篇が出版されました。

## ③大学院生教育環境の整備

令和7年4月から大学院生2名、普通研究生1名を受け入れ、医学研究科衛生学公衆衛生学分野と連携して、ICTも活用した大学院生・研究生教育を行いました。

## ④学外研究教育機関、関連学会・団体との共同研究・連携教育の促進

学外の研究教育機関(京都大学大学院医学系研究科社会健康医学系専攻医療疫学分野、慶應義塾大学経営管理研究科/医学部衛生学・公衆衛生学教室HTA公的分析研究室、聖路加国際大学大学院看護学研究科国際看護学、情報・システム研究機構統計数理研究所/総合研究大学院大学先端学術院、東京大学大学院医学系研究科健康総合科学科家族看護学分野、東京科学大学大学院医歯学総合研究科医療政策情報学分野、国立病院機構本部総合研究センター、滋賀大学データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター、名古屋大学医学部附属病院先端医療開発部データセンター、等)や関連学会・団体(日本臨床疫学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本コクランセンター、等)との共同研究・連携教育を行いました。令和7年度は、文部科研費を研究代表者として基盤B研究1件、基盤C研究1件、若手研究2件、研究分担者として基盤B研究3件、基盤C研究3件を受託して共同研究を促進し、英文論文19編を出版しました。

### (11)細胞外マトリックス研究所

#### ①肝病態克服に向けた創薬シードの開発

国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)肝炎等克服実用化研究事業の採択課題として研究を実施しました。肝線維症を標的とした創薬シードの研究開発として、薬効評価および薬物動態試験・安全性試験を行い、シードの有効性と課題を明らかにしました。

#### ②革新的医薬品の開発促進

国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)創薬総合支援事業課題として、研究計画に準じ開発中の創薬シードの優位性の検証を行いました。さらに産業界との連携に向けた情報整備を進め、研究成果の社会実装に向けた取り組みを推進しました。

#### ③大学発スタートアップの創出活動

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)大学発新産業創出基金事業課題として、大学発スタートアップの創出に向けた活動を実施しました。研究成果の事業化可能性の検討を進めるとともに、関係者との協議を継続的に行い、エコシステム形成に向けた基盤づくりに取り組みました。

#### ④国際特許の権利化

研究成果の社会実装に向けた基盤強化として、国内特許出願を基に国際特許の権利化手続きを進めました。主要国での特許審査対応に着手し、開発技術のグローバル保護に向けた取り組みを継続的に推進中です。国際権利基盤の整備を通じて、技術普及と経済的権利確保に向けた基盤を構築しています。

#### ⑤学内共同研究活動の推進と若手研究者の育成

消化器内科学講座および皮膚科学講座との共同研究のもと、採択された科研費課題2件を講座横断的に推進し、共著論文の発表に至りました。また、研究所スタッフによる科研費基盤研究(B)課題を遂行するとともに、若手研究者への指導・支援を通じて、人材育成と研究推進に努めました。これらの取り組みにより、若手研究者が本年度に公的研究費2件を獲得し、次年度採択予定の2課題獲得にもつながりました。

### (12) 昭和医科大学遺伝子組換え実験室

#### ①設備の維持管理

利用者へ実験室の使用ルールの周知とともに設置機器のメンテナンスと使用方法の説明を行いました。また、4台の安全キャビネットの風量点検を行い、いずれも許容範囲であることを確認しました。さらに実験室の衛生環境を維持するため、専門業者による清掃を実施するとともに、保管された遺伝子組換え生物および病原体を管理するため、暗証番号による入室管理を始めました。

#### ②教育訓練

遺伝子組換え実験の安全管理のため、動物実験委員会・バイオセーフティ委員会共催の実験登録者番号取得研修会および更新講習会で関連法規と本学の関連規程について解説・周知を行いました。179名が研修会を受講して新たに実験者番号を取得し、160名が更新講習会を受講して実験者番号を更新しました。

#### ③バイオセーフティ委員会・動物実験委員会への協力

遺伝子組換え実験計画書作成に関する相談、学内外への遺伝子組換え体の譲受・譲渡、病原体等所持・管理状況の把握、バイオセーフティ実験室の登録状況の把握・管理を行いました。また、9月に依頼のあった厚労省調査「ポリオ根絶に向けたポリオウイルス保持状況の確認」の趣旨と学内の調査結果をバイオセーフティ委員会にて報告しました。

#### ④研究支援・受託研究

実験室利用登録者数は、医学研究科17名、歯学研究科71名、薬学研究科35名、保健医療学研究科1名、研究所等25名の計149名であり、研究支援として凍結精子保存11件、受精卵凍結保存2件、凍結受精卵融解・移植4件、体外受精・受精卵移植4件、次世代シーケンサー解析用サンプルの品質解析を70件行いました。さらに、次年度から予定されている菌叢解析のトライアルを行い、本学で受託解析できる環境を整えました。

### (13) 昭和医科大学電子顕微鏡室

#### ① 配備装置の保守管理と有効利用

配備装置の保守管理を継続し、安定した運用と性能維持に努めました。あわせて、機器の使用方法に関する案内や講習を行い、利用者の拡大と有効利用を推進しました。実施例として、定期点検26回、使用説明会23回、対象者74人、更新候補機器1台の整理および導入検討を行いました。

#### ② 学内研究の推進

多機能型走査電子顕微鏡システムの活用を進めるため、学内研究者に対して機器の利用方法を紹介し、研究相談にも対応しました。実施例として、個別相談10件、個別講習9回、対象者17人、試料作製や画像取得支援10件を行い、学内研究の推進に努めました。

#### ③ 学内画像処理解析装置の集約体制構築

学内に分散している画像解析関連機器について、学内状況や担当部署の確認を行い、今後の連携のあり方を整理しました。臨床で導入した共焦点レーザー顕微鏡を受け入れ、保守管理、使用講習を実施して、基盤整備に努めました。

#### ④ 他大学との共同研究・産学連携・国際交流の推進

他大学との共同研究や情報交換を進めるとともに、企業との連携による研究相談や技術的な意見交換にも対応しました。また、学外研究者や留学生の受け入れを通じて、学術交流と国際交流の推進に努めました。

#### ⑤ 電子顕微鏡技術の普及と青少年向けの教育を目的とした社会活動

電子顕微鏡技術の普及を目的として、関連する講習会や教育活動に協力し、技術者育成に努めました。また、青少年を対象とした観察体験や学習支援の機会を設け、科学への興味関心を高める活動を行いました。実施例として、講習会への協力4回、児童向け観察体験4回、参加者40人、説明活動4回を行いました。

### (14) 昭和医科大学動物実験施設

#### ① 施設の維持管理

SPFエリアの飼育室について年3回の微生物モニタリング検査を実施し、適切に微生物統御されていることを確認しました。令和6年度にレンタルラボとして運用を開始した実験室は行動観察用実験室として再整備し、使用者の利便性を高めるためオンライン予約システムを導入しました。

## ②動物実験実施者への教育訓練

動物実験委員会・バイオセーフティ委員会の共催で行われた動物実験登録者番号の新規取得研修会および更新講習会をオンデマンドで開催し、新規取得講習会では168名が、更新講習会では157名が受講しました。今年度の研修会では、実験動物に関する倫理や動物実験に関する法規制を中心に内容の大幅な改定を行い、更新講習会では例年通りAPRIN eラーニングプログラムを活用して最新の知識の確認を促しました。

## ③動物実験委員会関連業務

動物実験の実施状況を年報にまとめ、自己点検・評価報告書とともに本学ホームページに公開しました。動物実験計画書について、記載事項の確認を行い動物実験委員会による審査を支援しました。また、委員と共に視察することで適切な分室の管理状況を確認しました。

## ④研究者の利便性向上を目的としたホームページの充実

外部所属者の施設利用や感染実験に関する手続きに加え、動物実験計画書等の申請書類の作成方法や当施設の構造、設置されている大型機器、提供可能な支援サービス（胚操作など）を利用者に分かりやすくホームページに掲載しました。

## ⑤動物実験施設に関するアンケートの実施

より良い実験環境を提供するために、動物実験施設の利用に関するアンケートをオンラインで実施しました。その結果、ほとんどの方が問題なく動物実験を実施または準備できていることが分かりました。一方で、動物実験の高度化に伴い、SPF飼育室をはじめ、マウスの飼育スペースの需要が高まっていることがわかりました。

### (15) 昭和医科大学分子分析センター

#### ①学部学生の研究活動支援

薬学部4年次前期の「薬学研究入門」及び5年次12月～6年次7月の「基盤研究実践コース」において、学部学生が分子分析センターの核磁気共鳴装置（NMR）及び質量分析装置（DART-TOF-MS）を利用するに先立ち、ユーザー講習会ならびに利用者認定試験を実施し、装置の安全な使用法や正しいデータ処理法を習得させ、学部学生の研究活動を支援しました。

#### ②学内外の研究活動支援

NMRおよびMS利用予定者にユーザー講習会を実施し、装置の安全な使用法や正しいデータ処理法を習得させた後、機器使用のライセンスを付与しました。また、当分子分析センター設置の大型精密分析機器を利用した受託測定を行いました。進行中の学内外の研究者の共同研究を継続しました。

#### ③利用者拡大に向けた研究活動の推進

NMRとMSにおける、メーカー主催のユーザーズミーティングにそれぞれ参加し、該当技術者より測定法について助言を得て、その情報に基づき研究を行いました。

#### ④広報活動

第45回キャピラリー電気泳動シンポジウムや日本薬学会第146年会において研究成果の発表を行いました。大学ホームページにセンターのサイトを開設し、周知に努めました。

#### ⑤運用内規に基づいた運営と機器の維持管理

運用内規に則って装置の適正かつ効率的な運用を図りました。また、新キャンパスへの移設の準備を行うとともに、機器の更新に向けて、情報を収集し、選定を行いました。

### (16) 昭和医科大学臨床医学共同研究室

#### ①研究支援

最新機器のオールインワン蛍光顕微鏡、プレートリーダーのデモンストレーションを実施しました。また、新しく導入されたプレートリーダーの取り扱い説明会、既存の設置機器を用いたアプリケーション例を紹介するウェブセミナーを開催しました。設置機器の使用法の説明など必要に応じて行いました。

#### ②機器の維持管理

機器導入に伴う、研究室のレイアウト変更を行いました。各機器、設備の保守、管理を行いました。

### III 学生・卒業生支援

#### 1. 奨学金

学校法人昭和医科大学奨学金（貸与）について64名を採用しました。また、給付型奨学金であるシンシアー奨学金、特別奨学金においても、合計89名に学費相当額の奨学金を給付し、学生が安心して学業に専念できるよう修学支援を行いました。

#### 2. キャリア支援

キャリアハンドブックを全学部配布し、各種講座（公務員講座やストレスマネジメント講座等）を開催して学生のキャリア形成支援を行いました。キャリアタスUCやLINEを活用した情報発信も継続して実施しています。また、薬学部合同企業研究会をはじめ対面での行事を推進し、活発な情報交換の場を提供しました。

#### 3. 健康管理

学生・職員の健康診断、B型肝炎ウイルス並びにインフルエンザのワクチン接種、ストレスチェックなどを行い、新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症をはじめ、身体面・精神面の体調不良者への対応（合理的配慮、就労支援を含む）、熱中症対策、過重労働者への対応を行い、学業や就業が健全に継続できるよう努めました。完成した保健管理システム（電子化）を稼働し、また、鷺沼キャンパスに新設される保健管理センター分室（仮称）の準備を行いました。

#### 4. ホームカミングデー

第18回昭和医科大学ホームカミングデーを昭和医科大学上條記念館で開催いたしました。卒後50年目の医学部43回生と薬学部6回生、卒業後25年目の医学部68回生、歯学部18回生、薬学部31回生、卒業後15年目の保健医療学部10回生をご招待し、総勢215名の方にご参加いただきました。式典では、上條由美学長による各招待学年代表者への記念楯贈呈のほか、招待学年代表者による挨拶や昭和医科大学宣言、校歌斉唱が行われました。式典に続いて開催した懇親会では、参加者が旧交を温め、「久しぶりにみんなと会えて今後の活力になった」「楽しい時間だった」などの声が聞かれました。

#### 5. 課外活動等

令和7年度の課外活動は、クラブ活動を中心に大変活発に行われました。日々の練習の成果が発揮され、各種大会における学生たちの活躍が目覚ましい一年となりました。学生たちはクラブ活動を通じて深い交流を図り、人間的な成長を遂げています。課外活動全体を通してかけがえのない経験を積み、充実した大学生活を送ることができました。

### IV 国際交流

#### 1. 学生の海外大学における実習・研修

令和7年度は円安や不安定な国際情勢の中、95名の学生を海外の大学や医療機関へ送り出しました。8月には1年次の選択必修科目として、「初年次スタディアブロードプログラム(オックスフォード大学ハートフォードカレッジ夏季研修)」を行い、17名の学生が参加しました。大学院生の海外渡航については、20名が海外の学会に参加し、9名が筆頭演者として発表を行いました。

【令和7年度 学生海外実習・研修状況】

学部	学年	月	実習・研修先 / プログラム名	人数
医学部	6年	4月	サラゴサ大学 (スペイン)	2名
			ウィーン医科大学 (オーストリア)	1名
			台北医学大学 (台湾)	1名
			クロード・ベルナール・リヨン第1大学 (フランス)	1名
			UCALA (アメリカ)	1名
		5月	クロード・ベルナール・リヨン第1大学 (フランス)	1名
			ウィーン医科大学 (オーストリア)	1名
			UCALA (アメリカ)	2名
			サラゴサ大学 (スペイン)	1名
			ハワイ大学 (アメリカ)	1名
	5年	1月	サラゴサ大学 (スペイン)	2名
		2月		2名
		3月	ウィーン医科大学 (オーストリア)	2名
			ルール大学ボーフム (ドイツ)	3名
			センメルワイス大学 (ハンガリー)	1名
			クロード・ベルナール・リヨン第1大学 (フランス)	1名
			グラスゴー大学 (イギリス)	1名
			マヒドン大学 ラマティボディ病院医学部 (タイ)	2名
	慶熙大学 (韓国)	1名		
計			27名	
歯学部	6年	4月	ウィーン医科大学 (オーストリア)	2名
			チュラロンコン大学 (タイ)	4名
			ブリティッシュコロンビア大学 (カナダ)	3名
			北京大学 (中国)	1名
			台北医学大学 (台湾)	2名
			南カリフォルニア大学 (アメリカ)	3名
	4年	7月	BRIDGE プログラム (Building Relationships for International Development, Growth, and Exchange:タイ)	3名
	3年			1名
計			19名	
薬学部	5年	8月	PSU サマープログラム 2025 (アメリカ)	1名
		9月	台北医学大学 (台湾)	2名
			クロード・ベルナール・リヨン第1大学 (フランス)	2名
	3年	1月	マヒドン大学 (タイ)	2名
	2年	3月	マハサラカム大学 (タイ)	2名
			カンボジアスタディツアー (カンボジア)	1名
計			10名	

保健医療学部	看護	4年	8月	PSU サマープログラム 2025 (アメリカ)	1名	
		3年			2名	
	理学	4年			1名	
		3年			1名	
	看護	4年			アドバンススタディアブロードプログラム ワライラック大学夏季研修 (タイ)	2名
		3年				2名
		2年		1名		
	理学	3年		3名		
	看護	3年		3月	カンボジアスタディツアー (カンボジア)	1名
		2年				1名
理学	4年	2名				
	計			17名		
富士吉田教育部	医	1年	8月	初年次スタディアブロードプログラム オックスフォード大学ハートフォードカレッジ夏季研修(イギリス)	6名	
					5名	
	薬理		3月	カンボジアスタディツアー (カンボジア)	5名	
					1名	
	医			3名		
	計		20名			
看護専門学校	2年	8月	PSU サマープログラム 2025 (アメリカ)	1名		
	1年	3月	カンボジアスタディツアー (カンボジア)	1名		
	計			2名		
合 計					95名	

【年度別 学生海外研修・実習状況】

(単位：人)

学部名 年度	医学部	歯学部	薬学部	保健医療学部	看護専門学校	合 計
令和2年度	0	0	0	0	0	0
令和3年度	0	0	0	0	0	0
令和4年度	15	7	2	0	0	24
令和5年度	28	12	22	22	0	84
令和6年度	36	17	19	17	0	89
令和7年度	36	24	15	18	2	95

【令和7年度 国別大学院学生海外渡航状況】

(単位：人)

研究科名 国名	医学研究科	歯学研究科	薬学研究科	保健医療学研究科	合計
タイ	0	0	0	1	1
韓国	0	3	0	1	4
中国	3	0	0	0	3
台湾	1	0	0	0	1
トルコ	1	0	0	0	1
南アフリカ	0	1	0	0	1
カナダ	0	3	0	0	3
アメリカ	0	1	0	0	1
スペイン	1	0	0	0	1
ギリシャ	0	0	0	1	1
オーストリア	0	2	0	1	3
合計	6	10	0	4	20

【年度別 大学院学生海外渡航状況】

(単位：人)

研究科名 年度	医学研究科	歯学研究科	薬学研究科	保健医療学研究科	合計
令和2年度	0	0	0	0	0
令和3年度	0	0	0	0	0
令和4年度	2	1	1	0	4
令和5年度	4	15	1	0	20
令和6年度	8	12	0	1	21
令和7年度	6	10	0	4	20

2. 海外の大学との交流協定の締結

医学部でタイのマヒドン大学（シリラート病院医学部）、ワライラック大学、及びプリンス・オブ・ソンクラー大学と学部間協定を締結しました。また、保健医療学部では、プリンス・オブ・ソンクラー大学（医学部）と学部間協定を締結しました。

【大学間・学部間協定校一覧】

	大学名	国名	協定締結月
大学間協定校	カイロ大学	エジプト	平成 12 年 11 月
	ローマ大学	イタリア	平成 12 年 11 月
	慶熙大学	韓国	平成 12 年 5 月
	ポートランド州立大学	アメリカ	平成 20 年 7 月
	台北医学大学	台湾	平成 30 年 2 月
	クロード・ベルナール・リヨン第1大学	フランス	令和 5 年 11 月
	センメルワイス大学	ハンガリー	令和 6 年 4 月
医学部間協定校	チューレン大学	アメリカ	平成 15 年 7 月
	ミネソタ大学	アメリカ	平成 16 年 11 月
	ウィーン医科大学	オーストリア	平成 17 年 9 月
	ハワイ大学	アメリカ	平成 18 年 2 月
	天津医科大学	中国	平成 20 年 10 月
	フィリピン大学	フィリピン	平成 21 年 7 月
	台北医学大学	台湾	平成 24 年 10 月
	アンタナナリボ大学	マダガスカル	平成 27 年 11 月
	UCLA（臨床実習協定）	アメリカ	平成 29 年 10 月
	タイ王国中央胸部疾患研究所	タイ	平成 31 年 3 月
	サラゴサ大学	スペイン	令和 3 年 3 月
	ロンドン大学クイーン・メアリー校	イギリス	令和 4 年 11 月
	マヒドン大学（ラマティボディ病院医学部）	タイ	令和 5 年 8 月
	カロールダビラ大学	ルーマニア	令和 6 年 10 月
	マヒドン大学（シリラート病院医学部）	タイ	令和 7 年 12 月
	ワライラック大学	タイ	令和 7 年 12 月
プリンス・オブ・ソクラー大学	タイ	令和 7 年 12 月	
歯学部間協定校	大連医科大学	中国	平成 15 年 9 月
	天津医科大学	中国	平成 16 年 10 月
	アデレード大学	オーストラリア	平成 17 年 3 月
	上海交通大学医学院	中国	平成 17 年 4 月
	南カリフォルニア大学	アメリカ	平成 18 年 2 月
	チュービンゲン大学	ドイツ	平成 18 年 4 月
	台北医学大学	台湾	平成 18 年 12 月
	香港大学	中国	平成 19 年 2 月
	トロント大学	カナダ	平成 21 年 9 月
	モンゴル国立医科大学	モンゴル	平成 22 年 3 月
	ブリティッシュコロンビア大学	カナダ	平成 23 年 12 月
	マハサラスワティ大学	インドネシア	平成 25 年 11 月
	トリサクティ大学	インドネシア	平成 29 年 2 月
	北京大学	中国	平成 29 年 5 月

	チュラロンコン大学	タイ	平成 29 年 12 月
	マジュンガ大学	マダガスカル	平成 30 年 1 月
	ウィーン医科大学	オーストリア	平成 30 年 3 月
	DA・パンドゥ・メモリアル・RV 歯科大学	インド	平成 31 年 3 月
	ホーチミン市医科薬科大学	ベトナム	令和元年 10 月
薬学部間協定校	嶺南大学	韓国	平成 19 年 10 月
	マハサラカム大学	タイ	平成 20 年 8 月
	オルバニー薬科大学	アメリカ	平成 21 年 12 月
	台北医学大学	台湾	平成 29 年 3 月
	フロリダ大学	アメリカ	令和 2 年 1 月
	マヒドン大学	タイ	令和 6 年 2 月
保健医療学部協定校	フィリピン大学	フィリピン	平成 21 年 7 月
	サンノゼ州立大学	アメリカ	令和 2 年 4 月
	ワライラック大学	タイ	令和 5 年 10 月
	プリンス・オブ・ソクラー大学 (医学部)	タイ	令和 7 年 12 月

### 3. 職員の海外留学・海外渡航

海外留学については、6名の教育職員が海外の大学や病院、研究施設等へ赴きました。海外渡航については、450名の職員が45か国を訪れ、学会発表等を行いました。

#### 【令和7年度 国別海外留学状況】

(単位：人)

名 国名	役職・学部				准教授				講 師				助 教				合 計		
					医	歯	薬	保	医	歯	薬	保	医	歯	薬	保		医	歯
アメリカ	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3		
オーストラリア	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
タイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1		
チェコ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
計	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	6		

【年度別 海外留学状況】

(単位：人)

学部名 年度	医学部	歯学部	薬学部	保健医療学部	その他	計
令和2年度	0	0	0	0	0	0
令和3年度	9	3	0	0	2	14
令和4年度	10	1	1	0	1	13
令和5年度	14	1	2	0	0	17
令和6年度	8	0	3	0	0	11
令和7年度	4	1	1	0	0	6

\*当該年度に出国した留学者数

\*その他は、「診療放射線技師」、「看護師」、「臨床薬理研究所:教育職員」等

【令和7年度渡航国・地域別 海外渡航状況】

国名	件数	国名	件数	国名	件数
インド	3	トルコ	2	オランダ	1
バングラデシュ	4	南アフリカ	3	ドイツ	32
ミャンマー	3	オーストラリア	11	フランス	13
タイ	35	ニュージーランド	2	スペイン	43
マレーシア	5	カナダ	12	ポルトガル	3
シンガポール	26	アメリカ	87	イタリア	12
インドネシア	1	メキシコ	1	ギリシャ	5
フィリピン	7	ブラジル	5	オーストリア	9
韓国	46	アルゼンチン	1	スイス	4
モンゴル	3	フィンランド	2	チェコ	4
ベトナム	5	スウェーデン	4	ハンガリー	4
中国	24	ノルウェー	2	セルビア	1
カンボジア	2	デンマーク	6	ルーマニア	2
ブータン	1	イギリス	6	カザフスタン	2
台湾	15	ベルギー	1	ジョージア	1
合計					461

\*1回の渡航で複数の国がある場合、それぞれ1件ずつ計上

【令和7年度 目的別海外渡航状況】

(単位：件数)

学 部 名		医学部	歯学部	薬学部	保健医療学部	教育部	その他	合 計
国際会議 (学会・シンポジウム)	出席	80	13	1	1	0	11	106
	発表	165	32	8	11	1	11	228
調査		1	0	0	0	0	4	5
共同研究		3	0	0	0	0	1	4
視察(見学・訪問)		12	0	2	8	0	8	30
学会・研究の打合せ(検討)		5	6	5	3	0	5	24
講義・講演(招待演者)		35	7	0	2	0	4	48
指導(講師)・派遣・診療		20	1	0	0	0	0	21
研修・セミナー		22	1	1	0	0	0	24
その他(交流プログラム)		3	0	0	4	0	22	29
合 計		346	60	17	29	1	66	519

\* 1回の渡航で複数の目的がある場合、それぞれ1件ずつ計上

\*その他は、臨床薬理研究所、先端がん治療研究所、富士山麓自然・生物研究所、臨床疫学研究所、電子顕微鏡室、国際交流センター、統括研究推進センター、医学英語教育センター、放射線技術部、看護部等の職員、及び総務部・人事部の事務職員

【年度別 海外渡航状況】

(単位：人)

学 部 名	医学部	歯学部	薬学部	保健医療学部 ・ 助産学専攻科	富士吉田教育部	その他	計
令和元年度	496	54	18	10	4	60	642
令和2年度	0	0	0	0	0	0	0
令和3年度	2	0	0	0	0	3	5
令和4年度	94	26	5	5	0	18	148
令和5年度	274	37	14	11	2	35	373
令和6年度	288	46	9	23	0	51	417
令和7年度	309	51	16	23	50	1	450

\*その他は、臨床薬理研究所、先端がん治療研究所、富士山麓自然・生物研究所、臨床疫学研究所、電子顕微鏡室、国際交流センター、統括研究推進センター、医学英語教育センター、放射線技術部、看護部等の職員、及び総務部・人事部の事務職員

#### 4. 学部留学生・大学院留学生の受入れ

本年度は25か国、80名の学部留学生及び大学院留学生を受け入れました。

また、大学院の各研究科では、外国籍の大学院生4名が学位取得を目指し研鑽を積み、内2名が学位を取得し大学院を修了しました。

【令和7年度国・地域別 留学生受入状況】

(単位：人)

国・地域	医学部		歯学部		薬学部		保健医療学部		合計	
	医学研究科		歯学研究科		薬学研究科		保健医療学研究科		男	女
	男	女	男	女	男	女	男	女		
バングラデシュ	1	2	0	0	0	0	0	0	1	2
タイ	2	0	0	4	0	4	3	11	5	19
マレーシア	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
フィリピン	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0
香港	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0
韓国	1	1	1	0	1	0	0	0	3	1
モンゴル	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
ベトナム	3	1	0	0	0	0	0	0	3	1
中国	2	2	2	3	0	0	1	0	5	5
ブータン	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
台湾	2	1	0	0	1	0	0	0	3	1
日本	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
マダガスカル	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
カナダ	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
アメリカ	1	1	0	0	2	0	0	0	3	1
メキシコ	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0
ブラジル	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
イギリス	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
ドイツ	0	1	1	1	0	0	0	0	1	2
フランス	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
スペイン	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
ポルトガル	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
オーストリア	1	1	1	0	0	0	0	0	2	1
ポーランド	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
ハンガリー	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
ルーマニア	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
小計	21	21	9	10	5	5	4	11	39	47
合計	44		18		9		15		86	

\*学位取得を目的とする学部生2名、大学院生4名を含む

\*日本国籍1名：(医学部) スロバキア在住の医学部学生

【年度別 学部留学生・大学院留学生学生受入状況】

(単位：人)

学部・研究科 年度	医学部	歯学部	薬学部	保健医療学部	計
	・ 医学研究科	・ 歯学研究科	・ 薬学研究科	・ 保健医療学研究科	
令和元年度	43	16	7	1	67
令和2年度	1	0	0	0	1
令和3年度	0	0	0	0	0
令和4年度	23	5	0	0	28
令和5年度	37	11	7	0	55
令和6年度	42	11	12	0	65
令和7年度	43	15	8	14	80

5. 招聘研究者の受入れ

歯学部、薬学部、及び保健医療学部で計10名の招聘研究者を受け入れました。

【令和7年度国籍別 招聘研究者受入状況】

(単位：人)

学 部 国 籍	医学部		歯学部		薬学部		保健医療学部		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
タイ	0	0	0	0	1	0	1	4	2	4
アメリカ	0	0	1	3	0	0	0	0	1	3
合 計	0		4		1		5		10	

【年度別 招聘研究者受入状況】

(単位：人)

年 度 学 部	医学部	歯学部	薬学部	保健医療学部	計
令和元年度	4	0	0	0	4
令和2年度	1	0	1	0	2
令和3年度	0	0	0	0	0
令和4年度	1	0	0	0	1
令和5年度	3	0	1	0	4
令和6年度	3	0	0	0	3
令和7年度	0	4	1	5	10

## V 地域連携

### 1. 公開講座

大学における教育・研究を広く社会に開放し、文化の向上と社会人の医療に関する知識を高めることを目的に、医系総合大学としての特色を活かした「暮らしと健康」をメインテーマとし、平成元年から昭和医科大学公開講座を開講しています。令和7年度では、広報活動に力を入れて幅広い層に興味を持っていただく工夫をしました。

#### (1) 旗の台キャンパス <暮らしと健康>

実施日/参加者数	テーマ	講師
5月10日 (146人)	ダビンチ・ヒノトリによるロボット支援 下手術と安全性向上への工夫	渡邊 良平 (医学部外科学講座消化器一般外科学部門講師)
	蛍光イメージング技術と人工知能技術を 駆使した最新消化器外科治療	田代 良彦 (医学部外科学講座消化器一般外科学部門講師)
	歩行再建を目指した最先端のリハビリテ ーション～ロボット技術の応用～	川手 信行 (医学部リハビリテーション医学講座教授)
11月8日 (128人)	食事とサプリメントについて (薬学的観点から)	和田 紀子 (薬学部病院薬剤学講座病院薬剤学部門 ／昭和医科大学病院附属東病院 講師)
	保健機能食品について	水野 亜美 (昭和医科大学病院栄養科 管理栄養士)
	こころのサプリメント :メンタルヘルスリテラシーを正しく理解する	前田 愛 (昭和医科大学横浜市北部病院看護部 精神看護専門看護師)

#### (2) 横浜キャンパス <暮らしと健康>

実施日/参加者数	テーマ	講師
6月15日 (35人)	お子さんのちょっと気になる行動のあれこれ	増山 英理子 (保健医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻 准教授)
		千賀 浩太郎 (保健医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻 講師)
10月25日 (37人)	「いびき」や「日中の眠気」が気になる方へ ～睡眠の悩みと上手に向き合う～	安達 太郎 (保健医療学部看護学科 ／医学部内科学講座循環器内科学部門 ／昭和医科大学病院附属東病院睡眠医療センター 教授)

(3) 富士吉田キャンパス <暮らしと健康>

実施日/参加者数	テーマ	講師
5月31日 (72人)	呼吸の力で整えるところとからだ	本間 生夫 (昭和医科大学 名誉教授)
	道端で楽しむ野草～ウォーキングをもっと楽しく!～	谷亀 高広 (富士山麓自然・生物研究所 講師)
11月1日 (69人)	人生がハッピーになる大人のためのオシッコ学	小川 良雄 (富士吉田教育部 教育部長・名誉教授)
	細長い町”からの復活～太宰治「富嶽百景」を読む～	田中 周一 (昭和医科大学 特任教授)

(4) 歯科病院 <暮らしと健康>

実施日/参加者数	テーマ	講師
10月11日 (15人)	さまざまな口腔粘膜疾患	大場 誠悟 (昭和医科大学歯科病院顎顔面口腔外科 教授)
	矯正歯科と健康寿命 ～いま、なぜ歯並びが大切なのか～	中納 治久 (昭和医科大学歯科病院矯正歯科 教授)
	今からできる!お口と身体の健康習慣	渡邊 友梨 (昭和医科大学歯科病院歯科衛生室 技術主事)

(5) 藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院 <暮らしと健康>

実施日/参加者数	テーマ	講師
6月28日 (59人)	暑い夏を乗り切る! 救命医が教える“熱中症予防のコツ”	宮本 和幸 (昭和医科大学藤が丘病院救命救急科 教授)
	遺伝医療のトビラをひらく ～遺伝学的検査と遺伝カウンセリング～	市川 眞琴 (昭和医科大学藤が丘病院臨床遺伝・ゲノム医療センター 認定遺伝カウンセラー)
11月22日 (31人)	べらぼう ～泌尿器科手術栄華乃夢嘶～	森田 順 (昭和医科大学藤が丘病院泌尿器科 准教授)
	その痛み・・・ひょっとしてリウマチ?	井上 嘉彦 (昭和医科大学藤が丘病院内科(リウマチ・膠原病) 教授)

(6) 横浜市北部病院 <暮らしと健康>

実施日/参加者数	テーマ	講師
5月24日 (61人)	「肺がん治療の進歩」 ～免疫チェックポイント阻害薬からロボット支援下手術まで～	北見 明彦 (昭和医科大学横浜市北部病院呼吸器センター 教授)
	不眠症(睡眠障害)の対応の仕方	稲本 淳子 (昭和医科大学横浜市北部病院メンタルケアセンター 教授)
1月17日 (41人)	心臓弁膜症を知ろう ～僧帽弁・大動脈弁の病気と治療法～	岡部 俊孝 (昭和医科大学横浜市北部病院循環器内科 講師)
	皮膚がんの基礎知識	山口 文太郎 (昭和医科大学横浜市北部病院皮膚科 助教)

(7) 江東豊洲病院 <暮らしと健康>

実施日/参加者数	テーマ	講師
6月7日 (112人)	お尻と骨盤の異変に気づく! 正しい知識と最新治療 —骨盤臓器脱(子宮脱)と脱肛(内痔核)を中心に— ①骨盤臓器脱の最新治療 —身体に優しい低侵襲手術を目指して— ②お尻から何か出る!? —脱肛・直腸脱の正体と対策—	石川 哲也 (昭和医科大学江東豊洲病院産婦人科 准教授)
		田邊 太郎 (昭和医科大学江東豊洲病院消化器外科 助教)
10月13日 (112人)	今日からできる!健康対策 —寝たきりにならないための食事療法— ①自宅でできる褥瘡治療 —それは予防— ②食事で防ぐフレイル・サルコペニア —健康寿命を延ばす栄養法—	永田 茂樹 (昭和医科大学江東豊洲病院皮膚科 特任教授)
		宮永 直樹 (昭和医科大学江東豊洲病院栄養科 管理栄養士)

(8) 烏山病院 <暮らしと健康>

実施日/参加者数	テーマ	講師
5月29日 (430人)	依存症治療における医療の役割	常岡 俊昭 (昭和医科大学烏山病院精神科 /医学部精神医学講座 准教授)
	烏山病院から〇〇に繋がって	昭和医科大学烏山病院に通院しており、 自助グループを利用している当事者 昭和医科大学烏山病院に通院している患者家族 で、家族会を利用している当事者 計11名の方々
12月6日 (28人)	対談：小説家 前川ほまれ氏と考える ヤングケアラーと家族について ～著書『藍色時刻の君たちは』を手 掛かりに～	真田 建史 (医学部 精神医学講座 教授/昭和医科大学烏山病院 病院長) 前川 ほまれ (小説家) 和賀 未青 (株式会社ニイラ 代表取締役)

VI 図書館

1. 図書整備

本館図書の書庫狭隘化対策として、富士吉田保存庫への移管を実施しました。研究者情報・業績集において、研究者個人が登録した業績を基に、部局の業績を各ホームページで公表することとなりました。図書館職員数は、司書11名（本館7名、富士吉田校舎分室1名、長津田校舎分室2名、看護専門学校分室1名）、事務員4名、学生アルバイトは30名です。

【蔵書数】

	図書の冊数(冊)		定期刊行物(種類)		視聴覚資料 (点)	電子ブック (種類)	電子ジャーナル (種類)	データベース (種類)
	図書	開架図書 (内数)	国内	国外				
本館	148,563	159,262	1,351	2,325	183	479	6,065	11
富士吉田校舎分室	41,081	※	※	※	224			9
長津田校舎分室	52,320	34,778	760	87	3,407			11
看護専門学校分室	18,542	18,542	188	4	22			11
合計	260,506	212,582	2,299	2,416	3,836	479	6,065	42

※は本館を含む

## 【利用状況】

	開館(室)時間	貸出者数		貸出冊数	
		職員・院生	学生	職員・院生	学生
本館	月～土 9:00-22:00 日祝 9:00-19:00	873	360	1,869	579
富士吉田校舎分室	月～金 10:30-21:30 土 12:30-16:00	30	789	72	1,310
長津田校舎分室	月～金 9:00-20:00 土 13:00-17:00	519	848	1,274	1,749
看護専門学校分室	月～金 9:00-20:00 土日祝 9:00-17:00	504	222	998	438

## VII 診療施設

### 1. 昭和医科大学病院

#### ①特定機能病院としての機能充実

今年度は、救急医療センター、総合周産期母子医療センターなどの運営に必要な機器備品のほか、手術室、外来や病棟で老朽化している各種機器備品を最新の機器に更新することにより、診療機能の充実、向上を図りました。

#### ②紹介患者、救急患者の受入強化による新規入院患者の増加

救急患者を原則全て応需するため、1次・2次救急の診療体制（医師の勤務形態、看護師の配置、救急外来・3階外来の運用、C9C病棟の運用）を整備しました。これにより、昨年度と比較して新入院患者数は10.6%の増加、病床稼働率は下半期平均で87.2%と目標達成しました。

#### ③紹介元医療機関との連携強化

医師事務作業補助者を活用し、初回受診時・入院時・退院時における返書作成体制の強化を図りました。これにより、返書の迅速化と適切な診療情報提供を推進し、紹介元医療機関との連携強化に寄与しました。

#### ④医療従事者の労務環境の改善

昨年度に引き続き、「医療従事者の負担軽減及び処遇改善に資する計画」を策定し実行するとともに、本年7月から新たに救急救命士を採用することにより、救急医療センターに従事する医師、看護師の業務をタスクシフト・シェアすることにより業務負担軽減を図りました。

## 2. 昭和医科大学病院附属東病院

### ①医療提供体制の充実

昭和医科大学病院との緊密な連携により、陰圧個室の有効利用などの転院促進を進め、新規入院患者は108.3%の増加いたしました。その結果、昭和医科大学病院の附属病院として、質の高い急性期医療を提供しました。

### ②計画的な機器・設備の更新

高度で安全な医療を維持するため、可搬式手術顕微鏡の更新等、機器設備を計画的に更新しました。また、ナースコール更新工事を全ての病棟で行い、診療機能と安全性の向上を図りました。

### ③効率的な病院運営の実現

タスクシフト・シェアを積極的に推進し、医療従事者の業務負担軽減と効率的な運営を両立させました。あわせて継続的な経費削減に取り組みました。

## 3. 昭和医科大学藤が丘病院

### ①病診連携の強化に伴う初診紹介患者と新規入院患者の獲得

二人主治医制の院内促進に伴い、「病院共有診療計画書」作成件数が20件/月の増加となりました。また、準緊急患者については、不応需事例を検証し、受入れ改善に努めました。不応需率は令和6年度24.5%あったものが7年度は7.5%まで引き下げることが出来ました。その結果、新規入院患者につきましても前年度より43名/月増加いたしました。

### ②効率的な病床運用の推進

ベッドアライアンスチームの定期的な病棟ラウンドにより、患者の状態等詳細な情報を把握し、効率的な病床管理を実施いたしました。また、長期入院患者の状況を退院調整部門へ共有したことにより、長期入院患者のスムーズな転院が促進され、効率的な病床管理が実施でき、病床稼働率は前年度比で6.4%増、救急車応需率は前年度比で4%増となりました。

### ③日曜日の手術・検査実施

MRI検査は検査枠を拡大し、検査数を増加させることで平日の待ち日数の短縮に努めました。手術室は、土曜日・日曜日・ハッピーマンデーと手術室利用診療科に定期枠を割り当て実施いたしました。またダヴィンチ手術は、平日の実施件数は増加いたしました。日曜日の実施はできておりません。

### ④労務環境の改善

労務管理の徹底を図るとともに有給休暇の取得を推奨いたしました。また、タスクシェア・シフトとして臨床工学技士による手術室器械出し業務を推進し、47術式まで拡大し、そのうち9術式については7名の臨床工学技士が習得しました。特定行為についても手順書を作成し、体制整備をすすめました。

⑤中長期計画に基づいた機器更新、建物設備維持管理の実施

医療機器の更新は緊急性、管理コスト等を考慮し、優先順位を明確にし、更新を行いました。建物設備に関しても藤が丘病院再整備計画をふまえ、B棟の耐震補強工事や経年劣化による補修等を実施いたしました。

4. 昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院

①病床稼働率の向上を目指した転院受入強化

各附属病院との合同カンファレンスおよび電子カルテ内共有フォルダを活用した転院依頼データベースの構築など附属病院間でスムーズな転院運用を確立いたしました。また、退院調整支援システムを新たに導入し、他医療機関からの転院受入体制も強化いたしました。令和7年度の病床稼働率は95%以上となりました。

②効率的な病床運用の推進

回復期病棟の施設基準（重症度割合、実績指数など）を満たすための受入調整をしつつ、各種チームの活動により退院を促進することができました。また、病床1日2回転化を強力に進めたことで効率的に病床を使用することができました。

③リハビリテーション機能充実および回復期病棟における脳血管疾患リハビリテーションの割合の向上

セラピストの増員により、日曜日・祝日の出勤体制の充実とリハビリテーション機能の充実を図りました。また、脳血管疾患の割合を常に6割以上になるように転院受入を調整し、年間を通して重症者割合6か月平均40%以上の施設基準を維持することができました。

④歯科診療の充実化

病院歯科の患者数は月平均280人と前年度とほぼ同数ですが、一般病棟入院中の患者にも口腔ケアの介入を拡大し、また、回復期等口腔機能計画策定料の算定対象患者の増加により医療収入も前年度比107.3%と増加しました。

5. 昭和医科大学横浜市北部病院

①Doctor to Doctor 制度の推進

地域医療機関との顔が見える連携強化として地域連携フォーラムを開催し、130名以上の出席となりました。近隣医師と当院医師を直接繋ぐDoctor to Doctor 制度による緊急受診受入は90%を超え、そのうち50%を超える患者さんが緊急入院となり、地域医療貢献を果たしました。

②特定行為研修指定研修機関の開始

今年度より開始した特定行為研修は、3月に8名の1期生修了者を輩出しました。この8名は各々人工呼吸器離脱や中心静脈カテーテル抜去など10件前後の特定行為実施が可能となります。次年度以降も積極的に取り組んでまいります。

③小児・周産期医療の充実

9床から12床に増床したNICUは98%以上の病床稼働率となりました。また助産師による分娩数は昨年度の2倍以上となる120件を超え、当院の特徴を印象づける結果となりました。

④中長期計画に基づいた機器ならびに病院設備の整備

今年度は外壁改修工事、熱源機器更新工事等を継続的に実施し、病院機能維持に努めました。耐用年数を超過した機器についても計画的に更新しました。

6. 昭和医科大学江東豊洲病院

①地域医療機関との連携促進

Doctor to Doctor 制度は、「断らない医療連携」を目標に掲げて、受け入れの強化に努めました。緊急紹介患者依頼の対応には、時間を掛けずに受け入れる運用を開始しました。各診療科と救急診療科との連携体制を強化し、救急診療科での初期治療後に専門診療科へのコンサルテーションを徹底し、新規患者の獲得に努め、入院患者数の増加につながりました。

②働き方改革の推進（タスクシフト・シェアの実践）

手術室業務のタスクシフトとして、臨床工学技士を新規に12名採用し、手術における器械出しに関するタスクシフトを実践しました。

③医療の質の向上

クオリティ・インディケーターについては、ホームページに診療科別と部門別に再整備し、医療の質の向上を図りました。また、江東区医師会および保健所と連携した感染症防止対策合同カンファレンスでは、「新興感染症の発生を想定した訓練」と「疥癬の感染対策」を共有し、「急性胃腸炎（嘔吐物処理を中心とした対応）」をテーマとした動画教材を作成し、地域の感染対策における指導的な役割を担いました。

④電子カルテシステムの更新

電子カルテおよび各部門システムを更新し、昭和医科大学病院、昭和医科大学附属東病院、昭和医科大学烏山病院、昭和医科大学歯科病院との間で患者IDを統一し、「5病院共通診察券」の運用を開始しました。また、電子カルテのログイン時の二要素認証導入や各ベンダーのリモートメンテナンス回線の一本化などセキュリティ体制のさらなる強化を図りました。

## 7. 昭和医科大学豊洲クリニック予防医学センター

### ①受診者リピート強化と新規顧客の確保

結果診察・結果票・接遇の見直し、受診者満足度調査を実施して改善した結果、リピート率が向上しました。また、予約開始時期を1か月前倒しし、利便性を高めるとともに、近隣住民への周知強化や企業団体の受入体制を整備し、新規受診者の確保に取り組みました。

### ②健診体制の見直し

健診需要の増加に対応するため、検査予約枠において8時30分枠を増設し、人員配置の見直しをしました。また、WEB予約システムを整備し、人間ドックのコース内容・料金の見直しをするなど、利便性の向上を図りました。

### ③中長期計画に基づいた機器更新、建物設備維持管理の実施

中長期計画に基づき、医療機器、空調設備の更新をしました。

## 8. 昭和医科大学烏山病院

### ①健全な病院運営のための外来診療拡充と高い病床稼働率の維持

外来診療では、予約間隔の見直しや院内ワーキングを立ち上げ、定期的な検査実施や外来でのECT実施を行いました。また、初診患者数増加に向けての取り組みとして、近隣医療機関や世田谷区の総合支所訪問を行いました。院内は電子カルテ更新に伴い、受付方法等の電子化（再来受付機・患者案内板の導入等）を行い、患者サービス向上に努めました。入院診療では急性期病棟の個室確保を目的とした院長巡視を定期的に実施し、断らない救急を目指し取り組みました。稼働率もベッドコントロールの強化により、前年度より高い稼働を維持できています。

### ②精神科病院の特色を活かした教育体制の継続

医学部4年、5年の臨床実習として、前半烏山病院、後半北部病院で約87名の学生を13クール受け入れました。薬局では、精神医療実習176名、病院実習Ⅱ12名、症例研究実践コース6名の臨床実習を提供し、薬学生のみならず、他学部の学生や外部施設の薬剤師にも教育を行いました。

### ③充実した地域支援体制の継続と地域連携強化

精神科医療地域連携事業として、症例検討会（9月）、公開講演会（1月）を実施し、事業内で連携会議を開催し、地域関係機関と意見交換を行いました。さらに顔の見える関係強化のため、病院長自ら近隣の他医療機関へ足を運び、実情を把握するとともに紹介患者の増加を図りました。また依存症専門医療機関及び依存症治療拠点機関として研修会を実施しました。

#### ④中長期計画に伴う建物設備維持管理の更新

設備整備として、中央棟外壁改修工事（1/3期）を中長期計画に則り実施しました。また、建物設備についても入院棟加圧給水ポンプユニットの更新や中央棟空調機更新工事など、安全面に配慮し、経年劣化に対応するため補修や維持管理を実施しました。

#### ⑤電子カルテシステムの更新

令和8年1月に電子カルテシステムの更新を計画通り実施し完了いたしました。本更新に伴い、診療録のスキャン運用を基本として従来の紙カルテを原則廃止しております。これにより、他の附属病院との共通運用を達成し、効率的で安全な診療録管理体制を構築いたしました。引き続き新システムの安定稼働に努めます。

### 9. 昭和医科大学歯科病院・歯科病院内科クリニック

#### ①医療連携の強化

各附属病院の病院歯科と連携して、口腔機能管理や口腔ケア実施を強化しました。また、今年度は東京の歯科医師会の他に神奈川歯科医師会、川崎歯科医師会へ歯科衛生士と事務で伺い、歯科医師会の会議にて当院の紹介などをさせていただき連携強化に取り組みました。近隣医療機関に対しては、自費料金の照会も含めて紹介件数の多いクリニックなどに直接挨拶回りをし、地域連携強化や歯科病院としての立ち位置について聞き取り等を行い紹介件数も昨年度比較で161件/年増加しました。

#### ②専門外来の実施

歯科病院受診の患者さんでSASの症状がみられる患者さんを内科クリニックに紹介いただくようポスターなど作成し各診療科に依頼をして患者数増加のための取り組みを行いました。

#### ③収支のバランスの取れた安定した病院運営

医療の質向上に関しては、ナビゲーションシステムや口腔内スキャナーの導入等、各治療においてデジタル化を進め、治療精度の向上、データ共有による情報連携の高速化・円滑化を推進しました。また、医療の質向上、患者の負担軽減および収益増加を考慮した医療機器を選定して購入しました。新規購入機器により、治療時間の短縮や患者の身体的負担が軽減され、実施件数の増加で収支均衡を図りながら適切な設備投資を実施し、次世代に向けた体制整備に邁進しました。

## 第3章 財務の概要

### [1. 決算の概要]

#### 1. 経営状況の分析

令和7年度は、物価高騰の影響により支出が増加しましたが、医療収入は年々前年度を上回る推移を辿っており、「増収減益」となっています。

##### (1) 貸借対照表の状況

令和8年3月31日現在の財産状況を示しています。固定資産（土地・建物・機器備品・特定資産他）と流動資産（現金預金・未収入金他）の資産の部合計は2,718億3,173万円で、前年度末と比べて97億274万円の増加となりました。「鷺沼キャンパス整備事業」新校舎建設の工事が進み、富士吉田キャンパスの新実習棟（2号館）が竣工したため、建物資産が増加したこと、都内3病院（江東豊洲病院・烏山病院・歯科病院）の電子カルテ更新を行い、機器備品等が増加したことが主な要因となっております。

一方、固定負債（長期借入金・退職給与引当金他）と流動負債（短期借入金・未払金他）の負債の部合計は555億9,283万円で、前年度末と比べて83億1,632万円増加となりました。借入金が38億1,761万円増加、学内預金預り金が3億8,131万円の増加、学校債が9億1,000万円の増加、さらに事業計画の機器等、期末未払金が各施設合わせて9億3,079万円増加したことなどが主な要因です。

資産の部の合計から負債の部の合計を差し引いた「純資産の部合計」は2,162億3,890万円で、前年度末と比べて13億8,642万円増加となりました。

##### (2) 事業活動収支計算書の状況

事業活動収支は、企業会計の損益計算書に近いもので収支均衡状態を測定し、経営状況を明らかにするものです。大学の収入・支出を大きく3つに分類しそれぞれの収支状況を示しています。

#### 【教育活動収支】

教育活動収支は、学校法人本来の活動である教育研究活動における収支状況を示しています。

教育活動収入計は1,470億2,704万円で、予算対比66億5,357万円の増加となりました。主な要因は、医療収入が1,225億1,666万円で、予算対比で50億6,135万円の増加、執行率が104.3%となったためです。また、経常費等補助金は、私立大学等経常費補助金獲得のための全学的な取り組みの推進を継続したことにより、交付額は57億9,060万円で586校中4位となりました。

教育活動支出計は1,441億1,208万円で、予算対比64億8,966万円の増加となりました。主な要因は、教育研究経費が予算対比68億8,527万円の増加、執行率109.4%で、為替の円安傾向が続き物価高となり薬品や医療材料等のコストが上がったことが大きく影響しました。

教育活動収支差額は、29億1,496万円の収入超過となりました。

### 【教育活動外収支】

教育活動外収支は、教育研究活動以外の経常的な財務活動に係る事業活動収入及び事業活動支出を示しています。

教育活動外収入計は7億7,216万円で、予算対比1億300万円の増加となりました。

教育活動外支出計は6,120万円となりました。

教育活動外収支差額は、7億1,097万円の収入超過となりました。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額の合計が経常収支差額となり、36億2,592万円の収入超過となりました。

### 【特別収支】

特別収支は、臨時的な事業活動収入及び事業活動支出を示しています。

特別収入は10億7,231万円で、有価証券の売却益等が1億7,062万円、施設設備への補助金や寄付金等が9億169万円となりました。

特別支出は33億1,181万円で、資産処分差額等が1億3,716万円、その他の特別支出が31億7,465万円となりました。

特別収支差額は、22億3,950万円の支出超過となりました。学校法人会計基準改正により賞与引当金特別繰入額31億6,425万円の計上を行うこととなったことが、主な要因です。

基本金組入前当年度収支差額は、13億8,642万円の収入超過となり、事業活動収支差額比率は、0.93%となりました。学校法人会計基準改正により、賞与引当金特別繰入額31億6,425万円の計上を行いました。附属病院の医療収入が増収となったことが要因となり、基本金組入前当年度収支差額が収入超過となりました。

基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計を引いた当年度収支差額は、158億2,834万円の支出超過となりました。

## 3. 経営上の成果と課題

学校法人会計基準改正により、賞与引当金特別繰入額31億6,425万円の計上を行いました。附属病院の医療収入が増収となったことが要因となり、基本金組入前当年度収支差額が収入超過となりました。また、安定した法人運営に資する具体的な増収策および経費の抑制・削減策を策定することや将来計画実現のための財政基盤の安定が課題となります。

## 4. 今後の方針・対応方策

令和8年度は、鷺沼キャンパス整備事業を引き続き進めていくとともに、令和9年度開設予定のリハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻、視覚機能療法学専攻ならびに医療技術学科診療放射線技術学専攻、臨床工学専攻、歯科衛生学専攻および横浜キャンパス看護専門学校の設置準備を進めていきます。また、年々増加する人件費や直接医療経費等に係る経費削減は法人経営の最重要課題です。

各部署・各附属病院において、安定した法人運営に資する具体的な増収策および経費の抑制・削減策を策定し、確実な予算執行および予算管理を実行していきます。

[ 2 . 経年比較 ]

1 . 貸借対照表

(単位：千円)

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
固定資産	187,935,733	194,323,351	203,721,160	206,700,920	224,489,447
流動資産	54,115,490	58,461,520	53,018,328	55,428,065	47,342,280
資産の部合計	242,051,223	252,784,871	256,739,488	262,128,985	271,831,727
固定負債	28,544,200	27,252,435	26,508,515	24,563,193	30,052,610
流動負債	16,858,830	21,002,680	18,891,657	22,713,311	25,540,217
負債の部合計	45,403,030	48,255,115	45,400,172	47,276,504	55,592,827
基本金	301,943,764	310,436,921	316,004,200	330,786,148	348,000,906
繰越収支差額	△105,295,571	△105,907,165	△104,664,884	△115,933,667	△131,762,006
純資産の部合計	196,648,193	204,529,756	211,339,316	214,852,481	216,238,900
負債及び純資産の部合計	242,051,223	252,784,871	256,739,488	262,128,985	271,831,727

## 2. 収支計算書

### (1) 事業活動収支計算書

(単位：千円)

科 目		令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	9,294,905	9,432,750	9,689,560	9,938,658	10,198,555
	手数料	396,545	378,761	319,266	396,890	427,572
	寄付金	660,580	648,731	528,385	641,044	588,643
	経常費等補助金	13,625,898	11,233,260	7,011,749	6,609,129	8,965,109
	付随事業収入	1,907,613	1,976,828	2,138,108	2,512,320	2,322,085
	医療収入	107,182,433	107,583,348	112,364,170	115,986,562	122,516,658
	雑収入	2,262,749	2,571,465	1,786,967	1,951,054	2,008,417
	教育活動収入計	135,330,723	133,825,143	133,838,205	138,035,657	147,027,039
	事業活動支出の部					
	人件費	52,641,493	52,700,653	53,443,351	55,599,146	58,397,641
	教育研究経費	63,925,216	66,432,319	70,686,947	74,292,252	79,916,762
	管理経費	4,448,186	7,992,546	4,915,251	5,533,743	5,728,261
	徴収不能額等	57,197	30,375	35,396	46,821	69,416
	教育活動支出計	121,072,092	127,155,893	129,080,945	135,471,962	144,112,080
教育活動収支差額	14,258,631	6,669,250	4,757,260	2,563,695	2,914,959	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	206,700	245,464	297,583	415,060	495,075
	その他の教育活動外収入	92,006	81,675	1,302,760	249,918	277,089
	教育活動外収入計	298,706	327,139	1,600,343	664,978	772,164
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	201,756	160,623	121,225	90,193	61,199
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	201,756	160,623	121,225	90,193	61,199	
教育活動外収支差額	96,950	166,516	1,479,118	574,785	710,965	
経常収支差額	14,355,581	6,835,766	6,236,378	3,138,480	3,625,924	

(単位：千円)

科 目	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末	
特別 収 支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	82,201	0	234,661	8,382	170,621
	その他の特別収入	1,523,943	1,106,637	684,572	557,425	901,688
	特別収入計	1,606,144	1,106,637	919,233	565,807	1,072,309
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	1,486,953	38,707	249,933	154,908	137,165
	その他の特別支出	143,040	22,132	96,118	36,215	3,174,648
	特別支出計	1,629,993	60,839	346,051	191,123	3,311,813
	特別収支差額	△23,849	1,045,798	573,182	374,684	△2,239,504
	基本金組入前当年度収支差額	14,331,732	7,881,564	6,809,560	3,513,164	1,386,420
基本金組入額合計	△12,354,392	△8,493,157	△5,567,280	△14,781,947	△17,214,759	
当年度収支差額	1,977,340	△611,593	1,242,280	△11,268,783	△15,828,339	
前年度繰越収支差額	△107,272,911	△105,295,571	△105,907,164	△104,664,884	△115,933,667	
翌年度繰越収支差額	△105,295,571	△105,907,164	△104,664,884	△115,933,667	△131,762,006	
事業活動収入計	137,235,573	135,258,919	136,357,781	139,266,442	148,871,512	
事業活動支出計	122,903,841	127,377,355	129,548,221	135,753,278	147,485,092	

## (2) 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
学生生徒等納付金収入	9,294,905	9,432,750	9,689,560	9,938,658	10,198,555
手数料収入	396,545	378,761	319,266	396,890	427,572
医療収入	107,182,433	107,583,348	112,364,170	115,986,562	122,516,658
寄付金収入	639,981	809,641	650,723	847,748	1,008,785
補助金収入	14,906,981	12,061,603	7,468,352	6,800,852	9,322,801
資産売却収入	1,283,886	1,659,157	1,770,281	3,305,249	10,719,209
付随事業・収益事業収入	1,999,619	2,058,502	2,315,938	2,762,239	2,599,175
受取利息・配当金収入	206,700	245,464	297,583	415,060	495,075
雑収入	2,429,867	2,607,666	1,830,212	1,956,423	2,034,134
借入金等収入	220,000	150,000	450,000	220,000	6,177,000
前受金収入	1,951,564	1,987,934	1,929,893	1,917,005	1,885,901
その他収入	28,937,728	27,474,475	26,749,602	34,266,938	48,646,433
資金収入調整勘定	△24,284,437	△23,911,744	△21,595,153	△22,145,431	△24,599,605
前年度繰越支払資金	28,397,887	31,174,811	35,956,646	29,886,448	27,463,396
収入の部合計	173,563,659	173,712,368	180,197,073	186,554,641	218,895,089

(単位：千円)

支出の部	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
人件費支出	52,553,781	52,575,457	53,102,802	55,367,083	58,463,381
教育研究経費支出	56,456,406	59,490,470	63,648,662	67,272,880	72,647,392
管理経費支出	3,825,267	7,379,816	4,323,626	4,631,390	4,932,063
借入金等利息支出	201,756	160,623	121,225	90,193	61,199
借入金等返済支出	2,167,920	2,187,920	1,731,390	1,366,840	2,359,390
施設関係支出	13,175,175	4,829,020	3,052,639	10,385,721	16,957,424
設備関係支出	3,459,799	3,923,605	4,327,791	5,397,894	7,255,496
資産運用支出	11,393,031	10,247,716	17,639,800	15,746,673	32,344,748
その他の支出	9,727,322	11,309,592	14,014,730	12,678,832	16,027,552
資金支出調整勘定	△10,571,609	△14,348,497	△11,652,040	△13,846,261	△14,754,356
翌年度繰越支払資金	31,174,811	35,956,646	29,886,448	27,463,396	22,600,800
支出の部合計	173,563,659	173,712,368	180,197,073	186,554,641	218,895,089

### (3) 活動区分資金収支計算書

(単位：千円)

科 目	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	135,296,245	133,817,664	133,834,249	138,035,434	147,022,465
教育活動資金支出計	112,819,154	119,439,881	121,001,529	127,268,729	136,038,437
差引	22,477,091	14,377,783	12,832,720	10,766,705	10,984,028
調整勘定等	147,546	3,900,443	437,833	723,494	△2,257,009
教育活動資金収支差額	22,624,637	18,278,226	13,270,553	11,490,199	8,727,019
施設設備等活動による資金収支					
施設設備等活動資金収入計	5,430,696	4,209,366	3,245,199	10,750,187	26,701,151
施設設備等活動資金支出計	24,574,975	16,172,625	15,320,430	23,723,615	50,048,420
差引	△19,144,279	△11,963,259	△12,075,231	△12,973,428	△23,347,269
調整勘定等	818,738	306,470	234,216	757,870	581,702
施設設備等活動資金収支差額	△18,325,541	△11,656,789	△11,841,015	△12,215,558	△22,765,567
小計（教育活動資金収支差額 ＋施設設備等活動資金収支差額）	4,299,096	6,621,437	1,429,538	△725,359	△14,038,548
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	4,718,310	4,083,784	4,926,413	8,588,782	20,267,369
その他の活動資金支出計	6,267,240	5,923,323	12,426,147	10,286,475	11,123,975
差引	△1,548,930	△1,839,539	△7,499,734	△1,697,693	9,143,394
調整勘定等	26,758	△63	△2	0	32,558
その他の活動資金収支差額	△1,522,172	△1,839,602	△7,499,736	△1,697,693	9,175,952
支払資金の増減額（小計＋その他 の活動資金収支差額）	2,776,924	4,781,835	△6,070,198	△2,423,052	△4,862,596
前年度繰越支払資金	28,397,887	31,174,811	35,956,646	29,886,448	27,463,396
翌年度繰越支払資金	31,174,811	35,956,646	29,886,448	27,463,396	22,600,800

[ 3. 主な財務比率比較]

比率名	算式	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
事業活動収支 差額比率	基本金組入前当年度収支差額	10.4%	5.8%	5.0%	2.5%	0.9%
	事業活動収入計					
基本金組入後 収支比率	事業活動支出	98.4%	100.5%	99.1%	109.1%	112.0%
	事業活動収入計 －基本金組入額					
学生生徒等 納付金比率	学生生徒等納付金	6.9%	7.0%	7.2%	7.2%	6.9%
	経常収入					
人件費比率	人件費	38.8%	39.3%	39.5%	40.1%	39.5%
	経常収入					
教育研究経費 比率	教育研究経費	47.1%	49.5%	52.2%	53.6%	54.1%
	経常収入					
管理経費比率	管理経費	3.3%	6.0%	3.6%	4.0%	3.9%
	経常収入					
流動比率	流動資産	321.0%	278.4%	280.6%	244.0%	185.4%
	流動負債					
負債比率	総負債	23.1%	23.6%	21.5%	22.0%	25.7%
	純資産					
純資産構成 比率	純資産	81.2%	80.9%	82.3%	82.0%	79.5%
	負債＋純資産					
基本金比率	基本金	99.1%	99.9%	100.6%	100.7%	98.9%
	基本金要組入額					
教育活動資金 収支差額比率	教育活動資金収支差額	16.7%	13.7%	9.9%	8.3%	5.9%
	教育活動資金収入計					

(注)「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

[4. その他]

1. 資産運用の状況

(1) 運用目的

資金を安全かつ有利に運用し、本学の教育研究の発展に資することを目的とします。

(2) 運用方針

資金の運用は安全性を重視し、原則として元本保証のあるものの資金の運用を行い、本学の教育研究に支障のないよう努めます。また、資金の運用にあたっては、運用期間および運用資金について資金繰りの計画を踏まえて、流動性を十分確保するとともに可能な限り期待される運用益の確保に努めます。

(3) 運用体制

資金運用の内部統制を行うため、資金運用委員会を設置しております。委員会では、運用方針、運用限度額および運用益目標等を決めております。また、決算時には年次運用実績を評価しております。

(4) 有価証券の時価情報

①総括表

(単位:円)

種 類	当年度 (令和8年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	6,307,382,687	7,577,179,958	1,269,797,271
（うち満期保有目的の債券）	(0)	(0)	(0)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	15,150,000,000	14,644,269,000	△505,731,000
（うち満期保有目的の債券）	(10,150,000,000)	(9,666,569,000)	(△483,431,000)
合 計	21,457,382,687	22,221,448,958	764,066,271
（うち満期保有目的の債券）	(10,150,000,000)	(9,666,569,000)	(△483,431,000)
時価のない有価証券	36,585,000		
有価証券合計	21,493,967,687		

②明細表

(単位:円)

種 類	当年度 (令和8年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債券	10,150,000,000	9,666,569,000	△483,431,000
株式	933,122,019	1,939,150,150	1,006,028,131
金銭信託	7,000,000,000	6,980,600,000	△19,400,000
その他	3,374,260,668	3,635,129,808	260,869,140
合 計	21,457,382,687	22,221,448,958	764,066,271
時価のない有価証券	36,585,000		
有価証券合計	21,493,967,687		

## 2. 学校債の状況

学校債の種類	本年度末残高	摘要
昭和医科大学まごころ学校債	850,000千円	
富士吉田キャンパス整備学校債	200,000千円	
創立100周年学校債	950,000千円	
合計	2,000,000千円	

## 3. 借入金の状況

借入先	借入残高	返済期限	摘要
公的金融機関	7,011,400千円	令和12年9月 ～ 令和27年9月	使途：施設費 担保：土地、建物
合計	7,011,400千円		

## 4. 寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額	摘要
創立100周年記念事業募金	保護者・同窓生・教職員等	315,890千円	
その他の寄付金	保護者・同窓生・教職員等	692,894千円	
現物寄付	教員・学生後援会等	96,311千円	科研費購入機器・ 図書等

## 5. 補助金の状況

補助金収入は93億2,280万円で、予算対比で16億5,020万円の増加となりました。予算と比べて、国庫補助金が14億4,601万円（22.7%）の増加、地方公共団体補助金が2億738万円（16.1%）の増加となりました。

## 6. 関連当事者等との取引の状況

(出資会社)

会社等の名称	事業内容	資本金等	出資割合	取引の内容	保証債務等
昭友商事株式会社	大学及び病院施設・設備の 管理業務他	10,000千円	100%	施設賃貸、物品購入・ 業務委託等	債務保証を行って いない。
株式会社 太陽堂 (昭友商事株式会社 の子会社)	文房具、OA機器、ソフトウェ ア、オフィス家具の販売	10,000千円	-	物品購入等	債務保証を行って いない。

7. 収益事業の状況

(1) 事業内容

不動産業・サービス業

(2) 経年比較

①貸借対照表

(単位：千円)

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
流動資産	38,128	57,527	105,437	151,842	192,809
固定資産	3,038,761	5,954,003	6,226,363	6,184,428	6,143,723
資産合計	3,076,889	6,011,530	6,331,800	6,336,270	6,336,532
流動負債	22,277	12,702	21,390	26,210	22,584
固定負債	330,534	113,092	133,153	133,157	137,045
負債合計	352,811	125,794	154,543	159,367	159,629
純資産合計	2,724,078	5,885,736	6,177,257	6,176,903	6,176,903
負債及び純資産合計	3,076,889	6,011,530	6,331,800	6,336,270	6,336,532

②損益計算書

(単位：千円)

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
営業収益	132,813	146,430	271,510	373,785	379,243
営業費用	42,278	61,280	93,327	123,951	102,192
営業利益	90,535	85,150	178,183	249,834	277,051
営業外収益	1,471	0	0	84	38
営業外費用	0	2,777	0	0	0
経常利益	92,006	82,373	178,183	249,918	277,089
学校会計繰入前利益	92,006	82,373	178,183	249,918	277,089
学校会計繰入金支出	92,006	81,675	177,830	249,918	277,089
税引前当期純利益	0	698	353	0	0
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	0	0
当期純利益	0	698	353	0	0

## 第4章 内部統制システムの整備及び運用状況の概要

### I 関係する決議の概要

令和7年3月11日の理事会において、理事の職務執行が法令・寄附行為に適合すること及び業務の適正を確保するための内部統制システムの整備・運用に関する基本方針が決議されました。

### II 体制整備及び運用状況の概要

#### 1. 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ・理事会、評議員会等重要会議議事録、その他理事の職務執行に係る情報については、寄附行為および「文書取扱規程」に基づき、適切に作成、保存および管理しています。

#### 2. 損失の危険の管理に関する規定その他の体制

- ・リスク管理について、「危機管理規程」に基づき役割権限、リスクの評価方法、リスク対応方法等を明確にし、適切なリスク管理を行っています。
- ・個人情報について、「学校法人昭和医科大学個人情報保護基本方針」および「学校法人昭和医科大学の個人情報保護に関する規程」に基づき、個人情報の保護と適切な管理を行っています。
- ・事業活動に関するリスクについて、法令および本法人の規程等に基づき、職務執行部署が自律的に管理することを基本としています。
- ・本法人運営に重大な影響を及ぼすおそれのある重要リスクについて、理事会で審議し、必要に応じて対策等の必要な事項を決定しています。

#### 3. 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ・「理事会の業務基準等に関する規程」、「事務組織規程」および「稟議規程」に基づき、理事、職員等の職務執行の適正性を確保するとともに、機動的な業務執行と有効性・効率性を確保しています。

#### 4. 職員の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制

- ・理事および職員が法令ならびに寄附行為及び本法人の規程を遵守し確固たる倫理観をもって事業活動等を行う組織風土を高めるために、「コンプライアンス推進規程」を定めています。
- ・本法人のすべての職員のコンプライアンス意識の醸成と定着を推進するため、不正防止等に関わる職員への教育および啓発活動を継続して実施、周知徹底を図っています。

- ・「学校法人昭和医科大学における公益通報者の保護に関する規程」に基づき、本法人の内外から匿名相談できる通報窓口を常設し、不正の未然防止を図るとともに、速やかな調査と是正を行う体制を推進しています。同規程に定める通報窓口に対しコンプライアンスに関する相談または違反に係る通報をしたことを理由に、不利益な取扱いを行わないこととしています。
- ・職員等の職務執行状況について、内部監査室がコンプライアンスの観点から監査し、その結果を理事会に報告する。理事等は、当該監査結果を踏まえ、所要の改善を図っています。
- ・法令、寄附行為違反等の行為が発見された場合には、「学校法人昭和医科大学における公益通報者の保護に関する規程」に従って、総務担当理事は迅速に状況を把握するとともに、状況に応じて外部専門家の協力を得て適正に対応しています。

#### 5. 監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制等

- ・監事は、理事会、評議員会等の重要会議への出席ならび重要書類の閲覧、審査及び質問等を通して、理事等の職務執行についての適法性、妥当性に関する監査を行っています。
- ・監事は、重要な書類および情報について、その整備・保存・管理および開示の状況など、情報保存管理体制および情報開示体制の監査を行っています。
- ・監事の職務を補助するものとして、監事の求めに応じ、独立性を有する補助職員を配置することができるが定められています。
- ・補助職員は、監事の指揮命令下で業務を行い、監事以外からの指揮命令を受けないことが定められています。
- ・補助職員は、監事に同行して、理事会、評議員会等の重要な会議および理事長との定期的な会合に陪席することができるが定められています。
- ・理事または職員は、本法人に著しい損害を与えるおそれのある事実または法令、寄附行為その他の規程等に反する行為等が発見したときは、直ちに理事長および担当理事ならびに監事に報告することが定められています。
- ・理事および職員等は、職務執行状況等について、監事が報告を求めた場合には、速やかにこれに応じることが定められています。
- ・理事長は、定期的に監事と会合を持つなどにより、事業の遂行と活動の健全な発展に向けて意見交換を図り、相互認識を深めることが定められています。

## 附属明細書

### (1) 「第4章 内部統制システムの整備及び運用状況の概要」の補足資料

#### ・学校法人昭和医科大学内部統制システムの整備・運用に関する基本方針（全文）

##### 1. 経営に関する管理体制

- ① 理事会は、定時に開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、法令・寄附行為に従い、必要な事項については評議員会の意見を聴いたうえで、業務執行上の重要事項を審議・決定するとともに、理事の職務執行を監督する。
- ② 寄附行為並びに「理事会運営規程」に基づき、理事会および評議員会の役割、権限および体制を明確にし、適切な理事会および評議員会の運営を行う。
- ③ 「理事会の業務基準等に関する規程」に基づき、業務を執行する理事の担当業務を明確にし、事業運営の適切かつ迅速な推進を図る。
- ④ 「理事会の業務基準等に関する規程」、「事務組織規程」および「稟議規程」に基づき、理事、職員等の職務執行の適正性を確保するとともに、機動的な業務執行と有効性・効率性を高める。
- ⑤ 理事会、評議員会等の重要会議の議事録その他理事の職務執行に係る情報については、寄附行為および「文書取扱規程」に基づき、適切に作成、保存および管理する。
- ⑥ 業務執行機関からの独立性を有する内部監査室により、業務の適正および効率性を確保するため、業務を執行する各部の職務執行状況等を定期的に監査する。

##### 2. リスク管理に関する体制

- ① リスク管理について、「危機管理規程」に基づき、役割権限、リスクの評価方法、リスク対応方法等を明確にし、適切なリスク管理を行う。
- ② 個人情報について、「学校法人昭和医科大学個人情報保護基本方針」および「学校法人昭和医科大学の個人情報保護に関する規程」に基づき、個人情報の保護と適切な管理を行う。
- ③ 事業活動に関するリスクについては、法令および本法人の規程等に基づき、職務執行部署が自律的に管理することを基本とする。
- ④ 本法人の運営に重大な影響を及ぼすおそれのある重要リスクについては、理事会で審議し、必要に応じて対策等の必要な事項を決定する。
- ⑤ 災害、事故その他の緊急時に備え、対応組織や情報連絡体制等について、「危機管理規程」、「災害対策規則」に基づき、継続的な教育と定期的な訓練を実施する。
- ⑥ 研究活動について、内部監査室および所管部署による研究費の適正経理、研究不正の防止および知的財産の保護を確保するとともに、諸規程に基づき必要な措置を講じる。

- ⑦ 理事会は、業務執行に関するリスクを特定し、見直すとともに、リスク管理体制についても見直しを行う。

### 3. コンプライアンスに関する管理体制

- ① 理事および職員が法令ならびに寄附行為及び本法人の規程を遵守し、確固たる倫理観をもって事業活動等を行う組織風土を高めるために、「コンプライアンス推進規程」を定める。
- ② 本法人のすべての職員のコンプライアンス意識の醸成と定着を推進するため、不正防止等に関わる職員への教育および啓発活動を継続して実施、周知徹底を図る。
- ③ 「学校法人昭和医科大学における公益通報者の保護に関する規程」に基づき、本法人の内外から匿名相談できる通報窓口を常設し、不正の未然防止を図るとともに、速やかな調査と是正を行う体制を推進する。同規程に定める通報窓口に対しコンプライアンスに関する相談または違反に係る通報をしたことを理由に、不利益な取扱いを行わない。
- ④ 内部監査室は、職員等の職務執行状況について、コンプライアンスの観点から監査し、その結果を理事会に報告する。理事等は、当該監査結果を踏まえ、所要の改善を図る。
- ⑤ 法令・寄附行為違反等の行為が発見された場合には、「学校法人昭和医科大学における公益通報者の保護に関する規程」に従って、総務担当理事は迅速に状況を把握するとともに、状況に応じて外部専門家の協力を得て適正に対応する。

### 4. 監査環境の整備（監事の監査業務の適正性を確保するための体制）

- ① 監事は、「監事の職務基準等に関する規程」に基づき、公平不偏の立場で監事監査を行う。
- ② 監事は、理事会、評議員会等の重要会議への出席ならび重要書類の閲覧、審査及び質問等を通して、理事等の職務執行についての適法性、妥当性に関する監査を行う。
- ③ 監事は、理事会が決定する内部統制システムの整備について、その決議および決定内容の適正性について監査を行う。
- ④ 監事は、重要な書類および情報について、その整備・保存・管理および開示の状況など、情報保存管理体制および情報開示体制の監査を行う。
- ⑤ 監事の職務を補助するものとして、監事の求めに応じ、独立性を有する補助職員を配置することができる。
- ⑥ 補助職員は、監事の指揮命令下で業務を行い、監事以外からの指揮命令を受けないものとする。
- ⑦ 補助職員は、監事に同行して、理事会、評議員会等の重要な会議および理事長との定期的な会合に陪席する。

- ⑧ 理事または職員等は、本法人に著しい損害を与えるおそれのある事実または法令、寄附行為その他の規程等に反する行為等を発見したときは、直ちに理事長および担当理事ならびに監事に報告する。
- ⑨ 理事および職員等は、職務執行状況等について、監事が報告を求めた場合には、速やかにこれに応じる。
- ⑩ 理事長は、定期的に監事と会合を持つなどにより、事業の遂行と活動の健全な発展に向けて意見交換を図り、相互認識を深める。
- ⑪ 監事はその職務の執行について生ずる費用の前払い若しくは支出した費用の償還又は負担した債務の弁済を請求した場合には、速やかに相当額を支払う。

#### 5. 本方針の改廃

本方針に見直しの必要性が生じた場合は、理事会の決議により改正するものとする。

